



||| Manulife Investment Management

# サステナブル投資／ 責任投資レポート 2020



# 目次



## トップ・メッセージ

マニユライフ・インベストメント・マネジメントは、投資家の皆さまの投資成果の向上を目指すとともに、環境や社会に貢献することに努めています。サステナビリティはこうした使命を遂行するための基本的条件です。サステナビリティを追求しなければ、成功する可能性はほとんどないと言ってよいでしょう。2020年に私たちがサステナビリティの重点分野であるインテグレーション、スチュワードシップ、コラボレーションの3分野で大きな進展を遂げたことを喜ばしく思っています。いずれの分野も、私たちの取り組みがお客様の目的を支え、世界経済の円滑な活動を支える環境と社会の基盤強化に貢献すると確信しています。

サステナブル投資／責任投資レポート2020では、サステナビリティに重点を置いた幅広い活動について説明するとともに、重点分野としてスチュワードシップへのアプローチを取り上げています。

グローバルな資産運用ビジネス全般での活動を反映し、私たちのスチュワードシップに重点を置いた活動は、①発行体に対する結果重視のエンゲージメント活動、②不動産および農地投資の新たなサステナブル資産としての認定、③世界最大の温室効果ガス排出企業に対する排出削減に向けた同業他社との継続的な働きかけ、④生物多様性のリスク管理のための基準策定の推進、⑤ゼネラル・パートナーのESG手法を評価する枠組みの

開発支援、として具体化されてきました。新型コロナウイルス感染症の拡大による実務上の課題に直面してもなお、私たちは投資活動はもとより、その基盤となる市場のシステミック・リスクの解消や緩和に重点を置いた活動を継続しています。これは私たちが考える優れたスチュワードシップの中核的な活動です。

気候に関する報告の活動が高く評価され、私たちは2020年にPRI (Principles for Responsible Investment) リーダーズ・グループに選ばれました。また、PRIとSASB (Sustainability Accounting Standards Board: サステナビリティ会計基準審議会) のいくつかの諮問委員会の活動も続けています。こうした活動はすべてのセクターにおける持続可能なビジネス慣行の促進に寄与すると考えています。お客様のニーズの進化に対応するため、サステナブル投資の選択肢を広げながら、今後もこうした活動を継続する方針です。

本レポートが皆さまの資産運用の一助となりましたら幸甚です。

### ポール・ロレンツ

グローバル・ヘッド・オブ・ウェルス・アンド・アセット・マネジメント

# マニユライフ・インベストメント・ マネジメントについて



## マニユライフ・インベストメント・マネジメントについて

マニユライフ・インベストメント・マネジメントは、マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーション(マニユライフ)のグローバルな資産運用ビジネス部門です。100年以上にわたるマニユライフの資産運用会社としての幅広いリソースとステュワードシップへの取り組みを生かし、世界の個人投資家、機関投資家、年金基金等のお客さまに資産運用サービスをご提供しています。

トロントに本社を構えるマニユライフ・インベストメント・マネジメントの多様な資産クラスにおける運用力を支えているのは、世界17カ国・地域にわたる運用・調査拠点です。さらにグループ外の資産運用会社も活用することで、こうした能力を補完しています<sup>1</sup>。

私たちは、すべての事業部門でサステナブル投資を実践しています。サステナブル投資のために革新的でグローバルな枠組みを構築し、投資先企業に協働エンゲージメントを行い、資産の保有や運用に際して高いステュワードシップ基準を遵守しています。

<sup>1</sup> 本レポートは、2020年12月31日時点におけるマニユライフ・インベストメント・マネジメントの運用力に限定して記述しており、グループ外の資産運用会社の運用力を評価するものではありません。米国ではジョン・ハンコックのブランドで運用を行っています。

## マニライフ・インベストメント・マネジメンツの概要(2020年12月31日現在)

大手グローバル金融サービス会社、マニライフの資産運用ビジネス部門

1887年の設立以来、  
お客さま資産の  
保全を手掛ける

グローバルで  
37,000人の従業員が  
3,000万人のお客さまに  
サービスを提供

運用管理資産残高は  
1兆2,000億カナダドル

- ・ ファイナンシャル・アドバイス
- ・ 保険
- ・ グローバル・ウェルス・アンド・アセット・マネジメンツ

### Manulife Investment Management

- ・ 機関投資家向け資産運用
- ・ 退職・年金プラン
- ・ 個人投資家向け運用

1,000超の  
機関投資家  
運用口座

運用管理資産残高は  
9,660億カナダドル

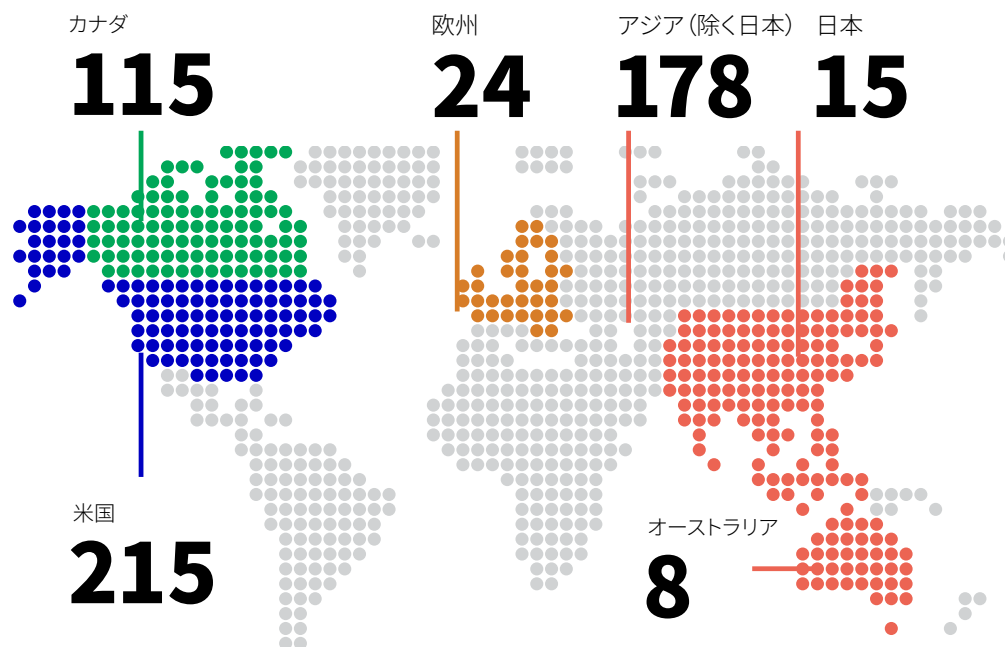
1,300万の  
退職年金制度加入者  
および投資家口座

グローバルで  
238,610件の  
退職年金制度に  
運用を提供

出所: MFC Statistical Information Package。マニライフ・インベストメント・マネジメンツは、マニライフのグローバル資産運用ビジネス部門のグローバル・ブランドで、個人投資家と機関投資家のお客さまに資産運用サービスを提供しています。グローバル・ウェルス・アンド・アセット・マネジメンツ部門の運用管理資産残高は2020年12月31日現在のもので、2,120億カナダドルのグループ内受託運用資産と1,627億カナダドルの管理資産を含みます。

## グローバルネットワークとローカルな知見の融合

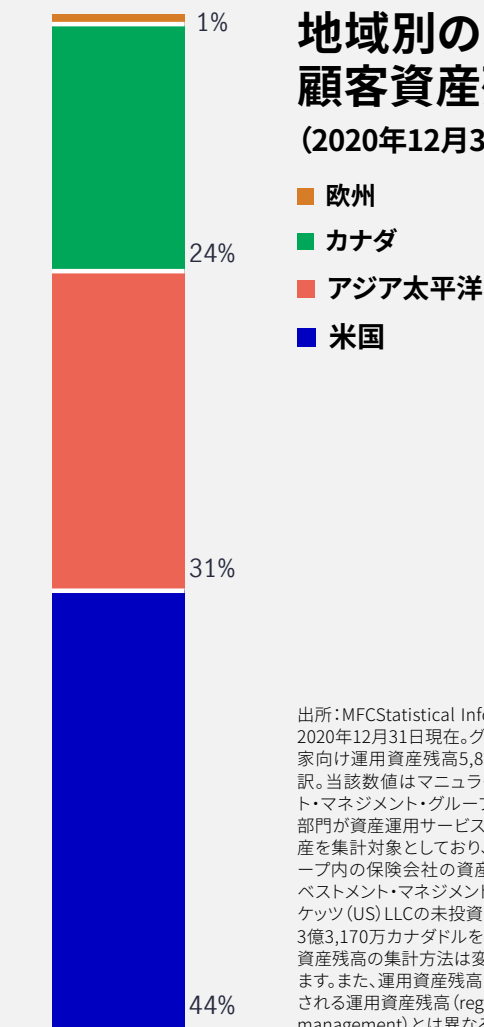
世界17拠点に550人以上の運用プロフェッショナルを配置 (2020年12月31日現在)



2020年12月31日現在。運用プロフェッショナルの人員数は、Manulife-TEDA Fund Management Co. Ltd (マニライフ・ファイナンシャル (49%出資) とTianjin TEDA Investment Holding傘下のNorthern International Trustとの合併会社)、Mahindra Manulife Investment Management Private Limited (マニライフ・ファイナンシャル (49%出資) とMahindra AMCとの合併会社) の運用プロフェッショナルを含みます。また、森林・農地、インフラストラクチャー・エクイティ、および不動産エクイティの運用プロフェッショナルも含まれます。

## 地域別の顧客資産残高比率

(2020年12月31日現在)



出所: MFC Statistical Information Package、2020年12月31日現在。グローバルの機関投資家向け運用資産残高5,806億カナダドルの内訳。当該数値はマニライフ・インベストメント・マネジメント・グループの機関投資家向け部門が資産運用サービスを提供する顧客の資産を集計対象としており、外部顧客資産、グループ内の保険会社の資産、マニライフ・インベストメント・マネジメント・プライベート・マーケット (US) LLCの未投資のコミットメント残高3億3,170万カナダドルを含みます。なお、運用資産残高の集計方法は変更される場合があります。また、運用資産残高は、Form ADVで報告される運用資産残高 (regulatory asset under management) とは異なる場合があります。



## 独自の強み

マニユライフ・インベストメント・マネジメントの親会社、マニユライフの歴史は古く、カナダ、米国、アジアで100年超にわたって数々の実績を積み上げてきました。最も成長している北米とアジアにおいて確固としたプレゼンスを築いています。

マニユライフ・インベストメント・マネジメントは、サステナブル投資への揺るぎない取り組みを行っており、幅広い能力を活かしてお客さまへのソリューション提供に努めています。さらに不動産、森林、農地などでは投資資産の売買を行うとともに、保有および運営する資産の管理も行っています。私たちは、持続可能なビジネス慣行を遵守することの課題と潜在的なメリットを深く理解しています。



## サステナブル投資への真摯な取り組み

責任投資原則 (PRI) の2019年サマリー・スコアカードは、サステナブル投資に対する私たちの真剣な取り組みを裏付けています。

### マニユライフ・インベストメント・マネジメントの2019年PRIサマリー・スコアカード<sup>2</sup>



<sup>2</sup> 2019年12月31日現在。評価方法の詳細についてはPRIのウェブサイト、もしくはマニユライフ・インベストメント・マネジメントのホームページをご覧ください。



## サステナビリティ・プロフェッショナルの陣容を強化

マニユライフ・インベストメント・マネジメントはグローバルなサステナビリティ・プロフェッショナルを16人から25人に増員するなど陣容の強化に取り組んでいます<sup>3</sup>。

## ガバナンスのアプローチ

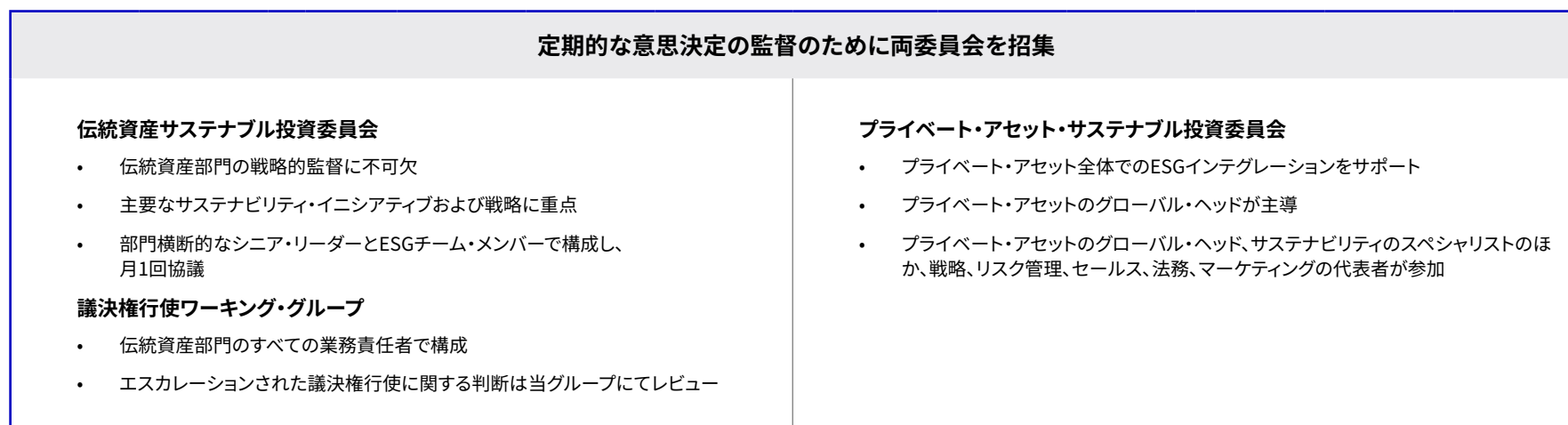
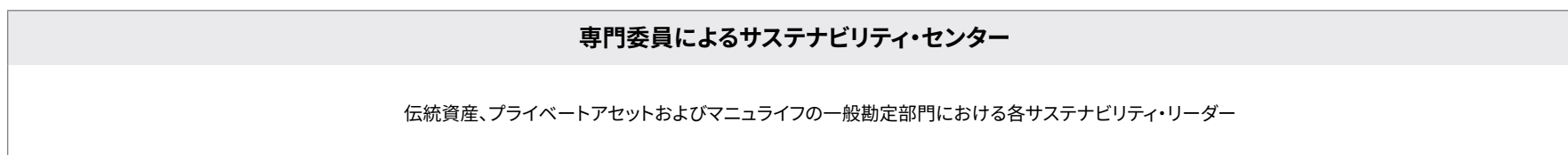
すべての資産クラスのリーダーに加えて、オペレーション、法務、コンプライアンス、リスク、ITなどの部門の代表者が関与することは、組織全体のサステナブル投資活動を支え、成功に必要な賛同とコミットメントに不可欠だと考えています。そのため、マニユライフ・インベストメント・マネジメントのガバナンス体制においては、サステナビリティ課題を長期的な事業戦略と日常業務活動の一部ととらえています。

さらに、マニユライフ・インベストメント・マネジメントのサステナビリティ・ガバナンス体制は、マニユライフのサステナビリティ・ガバナンス体制に連結しています。マニユライフのCEO、マニユライフ・インベストメント・マネジメントのCEO、マニユライフのグローバル最高サステナビリティ責任者ほかシニア・リーダーがマニユライフのエグゼクティブ・サステナビリティ・カウンシルの委員を務めています。カウンシルはサステナブル投資チームのリーダーとも密接に連携しています。

<sup>3</sup> 2019年9月から2021年3月31日の期間

## サステナビリティ・ガバナンス

■ マニュライフ ■ マニュライフ・インベストメント・マネジメント



マニユライフ・インベストメント・マネジメントのガバナンス体制は、サステナブル投資を推進する運用チームをサポートしています。

これらのチームは、サステナブル投資のベスト・プラクティスの特定や開発、投資サイクル全体を通じてベスト・プラクティスを採用するためのツールと方法を開発する運用チームやオペレーション・チームのサポート、社外のイニシアティブや業界の協働エンゲージメント(対話)への参加の主導など、様々な活動やプロジェクトを遂行します。

## **ダイバーシティ(多様性)、エクイティ(公平性)、インクルージョン(一体性)を追求する文化の醸成に努める**

私たちは、事業を展開しサービス提供の場となっているコミュニティとともに、組織のすべてのレベルでの多様性実現を目指しています。そして、パートナーシップやダイバーシティ、エクイティおよびインクルージョン(DEI)のサポートを通じてこうしたコミュニティとのつながりを維持することに努めています。

DEIの文化はイノベーションの芽を育み、有能な人材を惹きつけ定着させ、それがお客さまにより良いソリューションを提供することにつながると考えています。私たちの方針は、すべての従業員がありのままの自分で仕事に全身全霊で取り組む意欲を持ち、公私ともに成功し、お客さま、ビジネス・パートナー、コミュニティに最高のサービスを提供できる職場を構築するというマニユライフのグローバルなDEI構想と共通するものです。

## **DEIをリーダーの最優先課題とする**

地域ごとの規制要件や法的枠組みにより、市場ごとに異なるダイバーシティの指標を設定しています。ダイバーシティに対するリーダーと企業の説明責任を強化するため、カスタマイズされたリーダー用DEIダッシュボードを導入し、CEOと経営幹部が四半期ごとにレビューしています。また、DEIを人材リーダー全員のリーダーシップ目標に組み入れています。すべてのセグメント・部門は、それぞれの課題に基づいてDEIを向上させる独自のアクション・プランを策定しています。

マニユライフは2020年6月に、職場やコミュニティにおけるDEIの促進を目的として、2年間で350万カナダドル超の投資を行うことを決定しました。

この集中的な投資は以下の3点を目的とします。

- 1 組織のすべてのレベルで登用する人材の多様性を高める
- 2 研修の拡充によって全社的にインクルージョンを促進する
- 3 黒人、先住民、有色人種 (BIPOC) コミュニティの支援組織をサポートする

出所: マニユライフ, 2020年6月。





マニユライフは、3つの重要な項目に焦点を当てた様々なプログラムを通じてDEIの目標を追求しています

- 1 登用の促進** 大学院プログラム、リーダー採用活動、中堅社員の能力向上を通じて、BIPOCの登用を促進しています。特に北米事業では、以下の2つの目標を掲げています。
  - 2025年までにリーダーの役職に登用するBIPOCの人材を30%増やす
  - 大学院プログラムでBIPOCの人材を年間25%以上採用する
- 2 理解の促進** 無意識の偏見に関するトレーニングを提供するほか、2020年に実施したインクルーシブ・リーダーシップ(グローバル)、人種差別撤廃(北米)という2つの新しいリーダー向け学習プラットフォームを含む従業員を対象とするプログラムを提供し、リーダーが変革を推進し、思いやりと敬意に満ちたインクルーシブな職場を構築するためのサポートを提供します。
- 3 コミュニティのサポート** 寄付やボランティア活動を通して金融教育やキャリアの指導に重点的に取り組んでいます。これまでにサポートした組織は、NAACP Legal Defense and Educational Fund、Equal Justice Initiative、ICON Talent Partners、Canadian Association of Urban Financial Professionals、Canadian Race Relations Foundationなどです。

## マニュアル・インベストメント・マネジメントのジェンダー統計

	女性 (%)	男性 (%)
<b>地域別内訳</b>		
アジア	59.1	40.9
カナダ	50.6	49.4
欧州	38.6	61.4
米国	36.2	63.8
その他	21.3	78.8
合計	45.6	54.4
<b>役職別内訳</b>		
VP以上	23.9	76.1
AVP、ディレクター、マネージャー	36.5	63.5

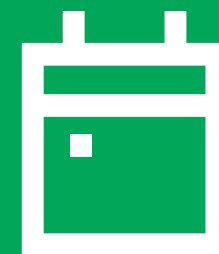
2020年12月30日現在。回答を辞退した職員と公開を希望しない職員を除外（全世界の職員の約0.3%）しています。「その他」にはオーストラリア、ニュージーランド、チリおよびブラジルを含みます。四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

## パンデミック期間中を通じて従業員を支援

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、相互の思いやりや気遣いの重要性を浮き彫りにしました。感染拡大当初から、私たちは自社の価値観と従業員、お客さま、コミュニティの健康や幸福の追求に献身的に取り組む方針に基づいて、新型コロナウイルス感染症に対応してきました。

パンデミックが世界中の従業員の重荷となっていることを踏まえ、全従業員が健康、休養、くつろぎのための時間を持てるよう、

# 有給休暇を 5日間、追加付与しました。



## マニユライフ・インベストメント・マネジメントの エンゲージメント・スコア(5ポイント満点)

2019年

3.85

2020年

4.16

上記マニユライフ・インベストメント・マネジメントの実績は、ギャラップ社が金融および保険会社1,000社以上を対象に実施した調査において、上位62%に位置します。

## 従業員の表彰

# 従業員の64%

2020年にPodiumを通じて表彰された従業員の割合、3,284の賞を授与

Podiumを開始した2020年6月以降2020年12月31日までの実績

## 資金援助の拡充

パンデミック期間中、在宅勤務を行うことができない職務に従事する従業員への資金援助と、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた従業員に短期の有給休暇を追加付与しました。

## 熱心で健全な人材の育成

マニユライフ・インベストメント・マネジメントの成功は、従業員が日々、職場で発揮する知識、スキル、熱意がもたらす結果に大きく依存しています。従業員が業務や学習、キャリア開発に共に熱意を持って意欲的に取り組む環境を築き、ハイパフォーマンスを達成するチームを育成することに努めています。

- 毎年2回の公式の従業員調査を通じて従業員の声に耳を傾け、意欲的にハイパフォーマンスを達成するチームの育成と文化の醸成を図っています。
- 従業員の様々な貢献度を評価し報いるため、グローバルなオンライン表彰プラットフォームであるPodiumを立ち上げました。



## サステナビリティの足跡

2015年にPRIの署名機関となって以来、すべての資産クラスでサステナビリティ対応を強化し、世界的なサステナビリティの課題に取り組む活動に積極的に参加してきました。



### 2021

- ・ グローバル不動産ポートフォリオがサステナビリティ・リーダーシップで業界1位にランクされ、GRESB (Global Real Estate Sustainability Benchmark) Sector Leaderとして評価されました
- ・ 保有する米国の農地の100%でLeading Harvest Farmland Management Standardの認証を取得しました<sup>4</sup>
- ・ スチュワードシップ・レポート2020を発行し、最新の英国スチュワードシップ・コードの署名機関として承認されました
- ・ 森林投資グループが炭素貯留を主な目的とする初のインパクト・ファースト投資を実施しました
- ・ 上場株式を対象とする初の気候変動対応ファンドを設定しました

<sup>4</sup> 2021年5月17日現在。

## 2020

- ・ 気候変動に関するレポートが高く評価され、PRIリーダーズ・グループ2020<sup>5</sup>に選ばれました
- ・ サステナビリティをテーマとする新商品を設定しました
- ・ 自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) 発足の契機となるInformal Working Groupに参加しました
- ・ 上場株式および債券戦略において、運用資産残高の79%の戦略でESGインテグレーションを実施しました<sup>6</sup>
- ・ 機関投資家のお客さま向けにESGレポートの提供を開始しました
- ・ GRESBのInfrastructure Asset Assessmentに初めて参加しました

## 2019

- ・ 株式および債券戦略へのESGインテグレーションのための枠組みを構築しました
- ・ 戦略とガバナンスに関してPRIの最高評価 (A+) を取得しました<sup>2</sup>
- ・ サステナブル投資／責任投資レポート創刊号を公表しました
- ・ 全世界の不動産資産の80%超で第三者機関によるグリーン・ビルディング認証を取得しました
- ・ グローバル・コンパクト・ネットワーク・カナダより SDG Canadian Leadership Awards 2019を受賞しました
- ・ サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) アライアンスのInvestor Advisory Groupに参加しました
- ・ ソブリン・クレジット・モデルにESG要素を組み入れる方法を策定しました

<sup>5</sup> 2020年9月18日現在、直近のPRIリーダーズ・グループ。 <sup>6</sup> 2020年12月31日現在。インテグレーションは、投資チームによるESGインテグレーションの進捗度を評価する、マニユライフ・インベストメント・マネジメント独自のインテグレーション進展レベルを基準としています。



## 2018

- ・ Climate Action 100+の創設メンバーになりました
- ・ 国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)のシナリオ分析パイロット・プログラムに参加しました

## 2017

- ・ 不動産ポートフォリオにサステナブル・ビルディング・スタンダードを導入しました

## 2016

- ・ 森林投資グループが1985年の開始以来10億本目となる植樹を達成しました

## 2015

- ・ PRIの署名機関となりました
- ・ GRESBの不動産アセスメントに初めて参加しました

2021年8月現在。



# サステナビリティのハイライト

## 実績

- 気候変動に関する報告への先進的な取り組みが認められ、2020年PRIリーダーズ・グループ<sup>5</sup>に選出された資産運用会社20社中の1社となりました。
- インフラストラクチャー・チームは、初のGRESBインフラストラクチャーのファンダ評価で29/30の管理スコアを取得しました。
- 3年連続の3件のファイブスターのランキングを含め、GRESBリアルエステートの6件すべてでグリーン・スターのランキングを取得しました。
- PRIより、戦略とガバナンス、上場株式、債券(ソブリン債、国際機関債、政府機関債)へのESGインテグレーションにおいて、A+評価を取得しました<sup>2</sup>。
- 伝統資産のESGチームは2年連続で、Capital Finance Internationalから「Best ESG team North America 2020」を受賞しました。

## 数々の賞を受賞する啓蒙活動

- CFA協会の論文「Climate Change Analysis in the Investment Process」はSavvy Investor's Best ESG Paper 2020を受賞し、その中でインド株式チームとESGチームによるケース・スタディ「インド株式：グローバルな低炭素移行におけるサプライチェーンの機会」が高く評価されました。
- マニユライフ・インベストメント・マネジメントのリサーチ・レポート「アジアのESG投資：見逃せない変化」がSavvy Investor Awards 2020の新興市場カテゴリーで高く評価されました。

## サステナビリティ関連商品の拡充

- 2020年、2021年を通じて、幅広いサステナビリティ目標に対応する様々な戦略を立ち上げました。
  - **サステナブルアジア債券戦略**
  - **グローバル・サステナブル・ハイ・イールド戦略**
  - **グローバル・クライメート戦略**
  - **ESGアジア・マルチ・アセット・インカム戦略**
- インパクト投資の一環として8.98万エーカーの森林を取得し、炭素隔離および貯蔵を実現しました。

## ESGインテグレーションの進展

- 地方債および証券化商品におけるESGリスクを分析するための新たな枠組みを開発しました。
- 社債発行企業と業界に対する社内ESGスコアリング・アセスメントを導入しました。
- プライベート・エクイティおよびプライベート・クレジット、インフラストラクチャー、不動産、森林、農地の投資ライフサイクルを通じたESGリスクと機会を評価するESGインテグレーション手法を構築しました。

## スチュワードシップ

- 2020年に全世界で株式および債券の発行体と1,122件のエンゲージメントを行いました<sup>7</sup>。
- 2020年に四半期ごとの議決権行使の記録を公表する管理ツールを立ち上げました<sup>8</sup>。
- 2021年初に、米国で直接運営している70,000エーカーの農業プラットフォームが、新たなLeading Harvest Farmland Management Standardの下で認証された初の農地となりました。
- 現在、管理している540万エーカーの森林は100%が第三者機関の認証を受けており、このうち47.2万エーカー超を特別重要地として保全しています<sup>9</sup>。
- 6件の新規LEED®と11件の新規BOMA BEST®の認証を含め、不動産ポートフォリオのグローバル・グリーン・ビルディング認証取得率は81%に達しました<sup>10</sup>。

## グローバルなコラボレーション

協働イニシアティブの全リストについては付属資料をご覧ください。

- PRIのInfrastructure Advisory Committeeのメンバー
- UNEP FIパイロット・プロジェクトのフェーズIIの参加メンバー
- TNFDのInformal Working Groupの参加機関
- 30% Club Investor Group, Canadaのメンバー
- Investment Leaders Group (ケンブリッジ大学) の参加メンバー

## 気候変動に対応するアクション

- 気候変動がもたらす課題に関する見解とアプローチを概説する気候変動ステートメントを発表しました。
- 不動産ポートフォリオ全体で2050年までに温室効果ガス (GHG) 排出量を80%削減する目標を設定しました<sup>11</sup>。
- 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の提言に沿った気候関連情報開示レポートを初めて公表しました。さらに、各資産クラスの幅広い運用力について取り上げたレポートや、森林・農地投資事業について説明したレポートも発行しています。
- 私たちが管理する森林と農地は220万MtCO<sub>2</sub> (5年間の移動平均) の炭素を除去しました。
- マニユライフはScope1およびScope2の排出量<sup>12</sup>を2035年までに35%削減し、2050年までの投資ポートフォリオのネット・ゼロ実現を目指しています<sup>13</sup>。

<sup>7</sup> レポート全文は公開されていません。詳細情報は、ご要望に応じてご提供可能です。 <sup>8</sup> 議決権行使の活動は、マニユライフ・インベストメント・マネジメントの伝統資産部門で実施されます。 <sup>9</sup> 「2020 Report on Sustainability and Responsible Investing in Timber and Agriculture」マニユライフ・インベストメント・マネジメント・ティンバーランド・アンド・アグリカルチャー (MIMTA、旧ハンコック・ナチュラル・リソース・グループ) 2021年6月。 <sup>10</sup> グローバル・ポートフォリオの不動産の総面積 (平方フィート) に基づいて算出。複数の認証を取得している物件は1回のみカウントされるため、各認証基準の合計は総合計ではありません。 <sup>11</sup> 運用管理下にある資産についてのScope1およびScope2の目標排出量。 <sup>12</sup> Scope1の排出量は、事業運営による直接的なGHG排出量を測定しています。Scope2にはエネルギーの消費による間接的な排出量を含みます。 <sup>13</sup> マニユライフの2020 Public Accountability Statementをご覧ください。

# 投資家としての役割



## 私たちの目的

資産運用会社としての私たちの目的は、お客さまに長期にわたって優れたリスク調整後の投資リターンを提供しながら、一貫したスチュワードシップ活動を通じて環境や社会に建設的に貢献することです。サステナブル投資への取り組みは、投資家としての必須条件だと考えています。

綿密な客観的分析、知識の共有、グローバルなコラボレーションを重視する企業文化を背景に、私たちは、サステナビリティの原則とボトムアップ型の投資手法は不可分であると考えています。サステナビリティは金融資産の価値向上につながり、一貫したスチュワードシップの実践はお客さまや従業員、テナント、投資パートナーなどのステークホルダーとの関係強化につながると考えます。

お客さまの投資資産の受託者、また管理者として、サステナブル投資は私たちのビジネスと企業文化に不可欠です。この分野のお客さまのニーズは拡大しており、サステナブル投資への真摯な取り組みは、お客さまの目的達成をお手伝いする私たちの責任と考えています。



## 基本理念

マニユライフ・インベストメント・マネジメントのサステナブル投資への取り組みは以下の理念に根差しています。



### サステナビリティは何もしないで得られるものではない

持続可能な成果を達成するためには、運用会社と投資家がサステナビリティの原則に基づいてリーダーシップを発揮し、責任を持って取り組む必要があります。



### サステナビリティは金融資産の価値向上に有用である

金融資産の価値創出のためには、自然環境の健全性と私たちが生きるコミュニティの社会インフラの強靭が必要です。真の投資価値を理解するためにはサステナビリティ分析が不可欠だと考えています。



### お客さまと共通のサステナビリティ目標を目指す

マニユライフ・インベストメント・マネジメントはサステナブル投資へのアプローチを含め、資産運用プロセスの透明性向上に努めています。透明性向上が、お客さまのステークホルダーへの対応をサポートすることにつながると考えています。



### サステナビリティの将来はアクティブ運用と結び付いている

財務データ分析と投資プロセスのシステム化が進む中で、ESG要素の価値を正しく理解して有効に活用するためにはアクティブ運用が相応しいと考えています。



### 高いステewardシップ基準を遵守する

マニユライフ・インベストメント・マネジメントと従業員は、資産運用において、サステナビリティの最善のプロセスと基準を遵守する責任があると考えています。また、投資先企業のサステナビリティの方向性に影響を及ぼす可能性があることも真摯に受け止めています。



### ステークホルダーへのコミットメントは運用成果のみにとどまらない

グローバル金融機関として、お客さまへのコミットメントは最重要事項ですが、マニユライフ・インベストメント・マネジメントは、運用成果のみならず社会に建設的に貢献する責任があると考えています。

## お客さまと共に

- 私たちは、幅広い資産クラスにおいてサステナビリティと投資の専門知識を生かすことにより、お客さまのニーズにお応えすることに努めます。
- 私たちは、業界標準とベスト・プラクティスに沿った商品と報告の拡充に継続的に努めます。
- 私たちは、コンサルティング・アプローチを通じてお客さまのサステナビリティ目標の達成を目指します。
- 私たちは、お客さまやその他の業界参加者を対象とするサステナビリティの教育とトレーニングを主催します。

私たちのサステナブル投資の専門性は、ESGインテグレーションからテーマ投資に至るまで、広範囲にわたっています。お客さまが社会的責任投資の考慮やスクリーニングの要件を投資ガイドラインや委託内容に含めている場合は、そのパラメーターを評価し、そうしたガイドラインに沿ってカスタマイズした戦略を提供できるかどうか判断します。

## お客さまとのコミュニケーション


私たちは、定期的な対話を通じてお客さまのニーズや要望を理解することに努めています。こうした話し合いの中でお客さまに投資目標について考えていただき、私たちは、お客さまからいただいたサステナブル投資の目標について検討します。

この1年間にお客さまからサステナブル投資とステュワードシップへの対応についてますます高度で複雑な質問を受けるようになりました。こうした質問に基づき、私たちはプロセスを継続的に見直し、改善しています。お客さまとしっかりとコミュニケーションを行い、質問に回答するために、複数の方法でサステナブル投資とステュワードシップ活動に関する概要を公開しています。

- **PRIアセスメント・レポート** PRIの報告サイクルに沿って年次PRIアセスメント・レポートを公表しています。
- **お客さま向けレポートの拡充** 2020年に株式および債券投資家向けに様々なサステナビリティ評価指標に関するお客さま向けレポートの提供を試験的に開始しました。お客さまから寄せられたフィードバックは極めて好意的なものでした。お客さまとの年次運用レビューの際に、このフィードバックに基づいてお客さま向けレポートを改善したいと考えています。また、プライベート・アセットについても業界慣行とお客さまからの要望に沿って報告方法の改善に努めています。加えて、お客さま向けレポートにESGの項目を組み入れました。定量的な指標を増やすとともに、お客さま向けレポートを長期的な結果や影響により重点を置いたものとする予定です。
- **議決権行使ダッシュボード<sup>8</sup>** 2020年に四半期の議決権行使の記録を開示する議決権行使ダッシュボードも開設しました。

お客さまは公開レポートに加えて、追加情報を必要とすることもあります。お客さまの要望に応じて、例えば、お客さまのポートフォリオに組み入れた資産に関連して行ったエンゲージメントや議決権行使の詳細な情報を提供しています。また、受託者としてどのようにステュワードシップを実践しているかについて、特定のエンゲージメントの結果や株主提案に関する検討事項を提供することもあります。プライベート・アセットについては、投資家からの年次、四半期および臨時的な情報提供依頼に対応し、投資手法、ESG関連のエンゲージメントの事例、サステナブル投資計画の更新などの追加情報についても提供しています。

# サステナブル投資へのアプローチ

A scenic landscape featuring several wind turbines on a mountain range. The sky is filled with soft, colorful clouds, suggesting a sunset or sunrise. The overall tone is serene and sustainable.

マニユライフ・インベストメント・マネジメントのサステナブル投資手法は、インテグレーション、スチュワードシップ、協働の3つを柱としています。これらを実践する方法は資産クラスや運用チームによって異なる場合がありますが、どの柱も投資プロセスに不可欠で、お客さまと私たちのサステナビリティ目標を追求するための基本的要素となっています。

## インテグレーション

- 投資および融資期間におけるあらゆる段階に応じた重要なESG要素の検討を組み入れる
- お客さまのポートフォリオの将来的なリスク・リターン特性を向上させる



## スチュワードシップ

- ESG関連リスクの軽減と機会拡大を目的として企業とのエンゲージメントを行う
- 保有または運営する資産の価値の保護と向上を図る



## 協働

- 世界的規模の重大な課題への影響力を高めるため、関連機関・組織と積極的に協働する
- サステナビリティに重点を置いた活動の範囲を拡大すると同時に、ポートフォリオの健全性の強化を図る





## インテグレーション

サステナビリティ課題の深い理解と総合的な分析をアクティブ運用に反映させています。

私たちのインテグレーション手法は、各資産クラスの運用チーム独自の哲学とアプローチを基盤として構築されています。各チームの手法は、25名のサステナビリティ・プロフェッショナルのグローバルな視点と地域に根差した知見に支えられています。こうしたサポートは投資、商品および資産クラス全体をカバーし、以下を含みます。

- ・ サステナビリティのリスクと機会の分析
- ・ サステナブル投資に役立つツールの開発
- ・ 経営陣とのエンゲージメント
- ・ トレーニングと教育
- ・ 資産クラスに関連する権利の行使に関する助言

## サステナビリティはすべての資産クラスにおける共通課題<sup>14</sup>

### すべての資産クラスに適用

各運用チームが責任を持って適用



株式



不動産



プライベート・  
エクイティ&プライ  
ベート・クレジット



債券



インフラ  
ストラクチャー



森林農地

ESGインテグ  
レーション

厳密な  
リサーチ

独自の  
ツール

<sup>14</sup> 対象とする資産クラスの特徴や投資プロセスのほか、業界や地域なども考慮して、投資と資産保有のライフサイクルのすべての段階に重要なESG要素の検討を組み入れることを目指しています。対象市場は運用チームごとに異なり、投資手法も同一ではありません。そのため、各チームはそれぞれの投資手法に最も適合する方法でESG要素を投資プロセスに組み入れています。

ESG要素の分析を組み入れた戦略に加え<sup>14</sup>、  
カスタマイズされたサステナビリティ・ソリューションも提供

ポジティブ・  
スクリーニング

より持続可能なビジネス・モデルを採用する企業や業界を対象とする



ネガティブ・  
スクリーニング

リスクの回避や価値観との整合性向上のために特定の業界や企業を除外または売却する



テーマ投資

特定の社会または環境の課題（生物多様性、ジェンダーなど）への解決策を提供する企業に投資する



気候変動対策

パリ協定の目標に整合した企業を対象とする





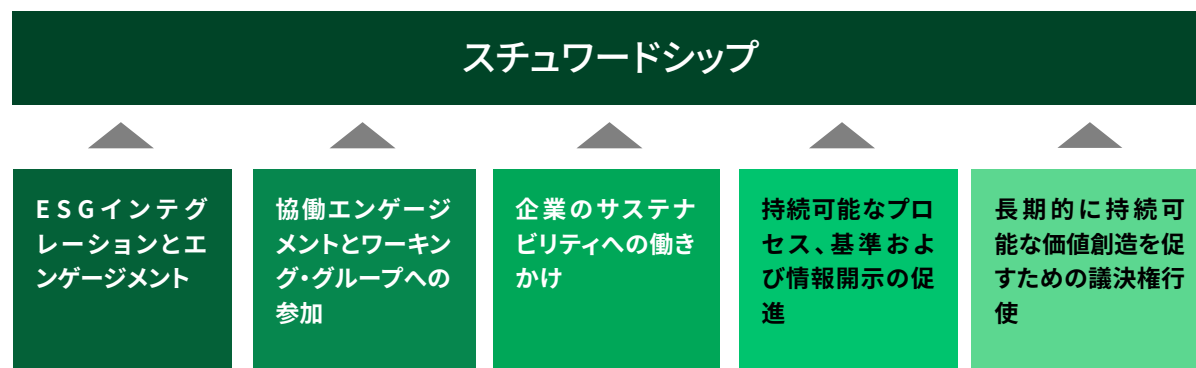
## スチュワードシップ

確固としたスチュワードシップの実践は良い投資成果につながり、お客さまの資産とその市場の健全性を向上させる上で不可欠だと考えています。

森林、農地および不動産の管理では、サステナビリティの優先課題に取り組んでいます。これらの資産クラスのほか、インフラストラクチャー、プライベート・エクイティ、プライベート・クレジットのポートフォリオでは、投資期間を通して、共同投資家、投資先企業およびビジネス・パートナーと継続的に対話し、ベスト・プラクティスを奨励し、入手可能なESG関連データのモニタリングに努めています。

株式や債券におけるスチュワードシップ活動の1つとして、投資先企業の経営陣とのエンゲージメントを実施しています。エンゲージメントの中で得られた情報は、本源的な企業価値の評価や企業の持続的な成長促進に役立っています。

### スチュワードシップ活動はサステナブル投資に不可欠



## エンゲージメント件数から 影響力重視へ

マニユライフ・インベストメント・マネジメントでは、この5年間に運用チームとサステナブル投資チーム全体でエンゲージメント件数が大幅に増加しました。

直近では件数よりも重大なサステナビリティ・リスクの軽減に影響を与えることができたかどうかにより重点を移しています。成果重視のエンゲージメントは、達成するまでに少なくとも数カ月を要しますが、企業と協力してリスク抑制に努めることが長期的にお客さまと私たちに有益であると考えています。

# 1,122

2020年のエンゲージメント  
実施総件数

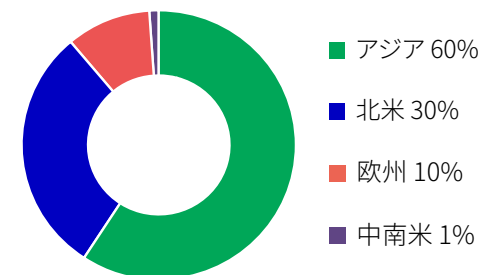
# 985

エンゲージメントを  
実施した企業・発行体数

# 38

エンゲージメントを実施した  
規制当局、NGO、政府および  
ベンダー等の総数

### エンゲージメントの地域別内訳



2020年12月現在。四捨五入のため数値の合計が100%にならない場合があります。NGOは非政府組織を表します。エンゲージメントは世界中の上場株式および債券の発行体を対象としたものです。



## 協働

私たちは、世界中で同業他社、非営利団体、NGO、国際機関との幅広い協働エンゲージメントに参加しています。こうした取り組みは、サステナビリティに重点を置いた活動の範囲を拡大すると同時に、ポートフォリオの健全性の向上に役立ちます。



### 業界単位の取り組み

多くの業界参加者と対話を行い、業界における主導的役割を果たす



### 発行体固有の課題に対処

個々の発行体固有の課題に取り組むことによりシステミック・リスクに対処



### 規制当局／政策対応

規制当局への影響力を高め、サステナビリティのベスト・プラクティスを奨励するため、世界中で協働



## ポートフォリオの健全性

投資資産やポートフォリオ全体の健全性の向上に努める中で、発行体、市場および政策当局に変革を奨励

## 協働イニシアティブに対する貢献と支援：2020年



### 気候変動

#### Climate Action 100+

創設メンバー、リーダー、サポーティング・インベスター

国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI) :  
TCFD パイロット・プロジェクト (2021年フェーズ II)  
メンバー



### 自然および生物多様性

#### Investor statement on the need for biodiversity impact metrics

署名機関

自然関連情報開示タスクフォース (TNFD) :  
非公式ワーキング・グループ (Scope 開発)  
メンバー

Sustainable Forestry Initiative : リソース委員会  
メンバー

Leading Harvest  
理事



### ESG 情報開示および透明性

米国証券取引委員会 (SEC) に対する投資家合同書簡 :  
資源採掘企業の支払情報開示に関して (ドッド・フランク・ウォール・ストリート改革および消費者保護法の第 1504 条)  
署名機関

サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) アライアンス : 投資家  
諮問グループ (IAG)  
証券取引所ワーキング・グループ議長




### ジェンダー・ダイバーシティ

30% Club インベスター・グループカナダ  
メンバー



付属資料では、マニュライフ・インベストメント・マネジメントが関わる主な業界団体やイニシアティブの詳細をご紹介します。

An aerial photograph of a rugged coastline. The foreground shows a stone wall or breakwater made of dark, rectangular blocks, extending into the water. The water is a vibrant turquoise color with white foam from the waves. The background consists of dark, rocky terrain with some sparse vegetation. The overall scene is dramatic and natural.

# サステナブル投資の実践

## 上場株式

運用資産残高:1,247億カナダドル<sup>15</sup>

運用プロフェッショナル:145名以上<sup>16</sup>

### 概要およびハイライト

- PRIより、上場株式のインテグレーションにA+、上場株式のアクティブ・オーナーシップにAの評価を取得<sup>2</sup>
- 気候変動対策で進展が見られる企業に投資する初の気候変動対応戦略を2021年第1四半期(1~3月期)に開始
- インド株式チームとESGチームがBest ESG Paper 2020に掲載されたケース・スタディについてSavvy Investorより高く評価される。

## インテグレーション

株式ポートフォリオで採用するサステナブル投資の枠組みは、ボトムアップ型のファンダメンタルズ・リサーチ・プロセスの延長線上にあり、株式運用チームはESG要素の分析をプロセスに組み入れることを確約しています。

各株式チームは魅力的なリスク調整後リターンと元本保全の目標を追求する中、デューデリジェンスと意思決定プロセス全体を通じてESG要素を評価する責任を負っています。各チームは、それぞれ独自の戦略を最も効果的に補完する方法でESG要素を組み入れています。チームごとに運用プロセスは異なりますが、ESGインテグレーションへの全体的なアプローチは一貫しており、デューデリジェンス、リスク・モニタリング、アクティブ・オーナーシップの投資ライフサイクルを通じて行います。株式チームはファンダメンタルズ・リサーチ・プロセスを通じて、将来的にパフォーマンスの変動要因となる可能性のあるESGリスクと機会を含むリスク・リターン特性を明らかにします。

<sup>15</sup> 外部委託の運用資産残高(AUM)を除き、資産はバランス型を含みます。なお、運用資産残高の集計方法は変更される場合があります。<sup>16</sup> 運用プロフェッショナルの人数には、マニユライフ・インベストメント・マネジメント・グループおよび合併会社の人員を含みます。

## スチュワードシップ

私たちは様々なスチュワードシップ・コードの署名機関として、その遵守はサステナブル投資に規律と適切なガバナンスの枠組みが必要だという私たちの信念を示すものと考えています。私たちのスチュワードシップ活動は、運用チームと投資先企業との間で行う幅広いエンゲージメントにおいて確認できます。こうしたエンゲージメントを補完するために、進展が見られなかった場合には対応手段を強化します。

株式のスチュワードシップ活動には、エンゲージメントと議決権行使の両方が含まれます。私たちはアクティブ・オーナーシップの責任を果たすために、2020年に経営陣の提案の10%に反対票を投じました。また、アクティブ運用およびパッシブ運用のポートフォリオの保有銘柄全体で50%以上の株主決議案を支持しました。運用チームは議決権行使について積極的にレビューし、2020年には400件以上の詳細なレビューを行いました。さらに2021年初め、議決権行使のレビューの効果と効率を高めるための改善を行い、こうした活動の成果については2021年議決権行使レポートで開示しています<sup>8</sup>。

## 協働

重大なESG課題について協働することは、お客さまに対する受託者責任にも合致しています。業界団体やサステナビリティを重視する機関と行う協働エンゲージメントを通じて、集団による影響力を高め、企業の主要経営陣に対して統一した見解を述べることで様々な意見の錯綜を回避し、企業が有意義な成果が得られる目標の設定に注力できるようサポートします。こうした活動ではグローバル展開によって得られる広範なノウハウを活用します。

PRI Listed Equity Advisory Committee : PRI Listed Equity Advisory Committeeの委員として、伝統資産部門ESGインテグレーション・アンド・リサーチのグローバル・ヘッドを務めるピーター・メニーは重大なESG課題に対応するために、上場株式に係る意欲的な戦略の設計および策定に役立つ情報、アドバイス、知見を提供しています。

## 債券<sup>17</sup>

運用資産残高:2,605億カナダドル<sup>18</sup>

運用プロフェッショナル:145名以上<sup>16</sup>

### 概要およびハイライト

- 債券へのESGインテグレーションに対してPRIより、債券(ソブリン債、国際機関債、政府機関債等)でA+、社債(金融)、社債(非金融)および証券化商品でA評価を取得<sup>2</sup>
- 地方債および証券化商品におけるESGリスク分析の新たな枠組みを開発
- 社債発行体と業界を対象とする社内ESGスコアリング評価を導入
- 初のサステナブル戦略Sustainable Asia Bond Strategy (2020年)とGlobal ESG High Yield Strategy (2021年)を設定
- マニユライフ・インベストメント・マネジメントのサステナブルアジア債券に関するレポート「ESG investing in Asia—an invisible evolution」がSavvy Investor Awardsのエマージング市場カテゴリーで高く評価される

## インテグレーション

私たちの債券へのESGインテグレーションは、投資対象とする業界、発行体、国および投資ビークルの重大な問題を特定できるようにしています。債券運用プロフェッショナルはESGリスクの重大性の評価に加え、その影響が表れる時期の評価にも努めています。

債券チームは、ESGインテグレーション・プロセスの一環として多岐にわたる独自のツールや枠組みを使用します。

- **業界および企業を対象とする社内ESG評価** クレジット・アナリストは、企業や業界に適用できる独自のESGスコアリング・システムを開発しています。スコアリングに際して、チームは、外部のデータ・プロバイダー、企業の提出資料、企業経営者によるプレゼンテーションなど、様々な情報を考慮します。アナリストは業界と企業の評価および企業の見通しに、業界別の重大性マトリックスを使用します。こうしたESG評価は、すべてのリサーチ・チームでファンダメンタルズ・リサーチ・プロセスの一環として、各アナリストが行います。

<sup>17</sup> マニユライフ・インベストメント・マネジメントは、ここでは債券を公募債券と定義し、社債、ソブリン債、地方債、優先証券、証券化商品を含めます。当セクション(債券)に記載された情報は、マニユライフ・インベストメント・マネジメントの伝統資産部門が運用するこれらの種類の債券投資に関連しています。<sup>18</sup> 外部委託の運用資産残高(AUM)は合計から除外されています。資産は、マネー・マーケット、パッシブ型、絶対収益型、バランス型を含み、負債対応投資(LDI)資産を除外しています。AUMの算出に使用する方法は変更される場合があります。

- 独自のソブリン債ESGリスク・モデル** 社内のグローバルESGリサーチ・アンド・インテグレーション・チームと、ソブリン債およびマルチセクター債券チームが共同開発したユニークなモデルは、ソブリン債についてトップダウンによるダイナミックな視点を提示し、ESGの信用リスク分析テンプレートを補完します。これはESG要素によるスプレッドやデフォルト・リスクへの潜在的な影響の評価に役立ちます。国を発展段階に応じて分類し、同一分類の中でESGの相対評価を行います。
- 地方債のESGの枠組み** 私たちの地方債の枠組みは多くの米国地方債セクターをカバーしています。水道、住宅、インフラなどを含め、発行額に基づいて定量および定性的情報を組み入れ、各発行体についてセクターごとの重大な要素について評価することができます。当モデルは、社債へのESGリスク・インテグレーション・プロセスと同様に、各発行体を1(低リスク)から4(高リスク)で評価しています。

- アジアの信用格付の付与** アジア債券チームは、市場の主要な格付機関が1つしかないことを考慮し、信用分析と格付付与の独自の手法を開発しました。チームは、ESG要素が信用格付の判断にどの程度影響するかを数値化するため、通常の信用調査プロセスで使用するESGスコアカードを開発しました。このスコアカードは様々な定性的属性に基づき、発行体のESGリスクを、各ESG要素の4つのリスク集中度ランキングのいずれかに分類します。クレジット・アナリストは、政府の支援、ビジネスの多角化、財務力といった潜在的なリスク緩和要因を考慮して、異なる格付付与が適切かどうか判断する権限が与えられています。チームは、重大なESGリスクへの対応を怠っている発行体の信用格付を引き下げますが、それは最終的にバリュエーションの低下につながります。
- 証券化商品へのESGインテグレーションの取り組み** クレジット・アナリストは証券化商品のESGリスク評価に3つのパートからなる枠組みを使用しています。1つ目の枠組みはオリジネーター、スポンサー、サービサーまたは受託会社を分析することにより企業体に重点を置きます。これは、アナリストが企業の貸付慣行や債務不履行に関するポリシーが担保にどのように影響するかを把握する上で役立ちます。2つ目の枠組みは金融商品の契約の強さ、判例および証券化の仕組みが企業のESGリスクをどの程度軽減するかに重点を置いて債務構造を評価します。そして3つ目は、地域的な集中や規制リスクの観点から担保を評価します。

### 米国の州の一般財源保証債のESGテンプレートの例

一般財源保証債発行体のESG評価	
債務者:米国の州	スコア
環境	
自然災害リスク/気候変動	1
LEED認証ビルディング	1
独自の強み/弱み:汚職の履歴	+1
<b>最終スコア</b>	<b>3</b>

州は、水位上昇がもたらす課題に直面する可能性のある氾濫原を除き、自然災害リスクは低い  
政府の建物はすべて義務付けられているLEED認証を取得

発行体固有の弱みによってスコアに1を加算して最終スコアを2から3に変更

発行体の環境と社会の側面は良好であるものの、ガバナンスの重大な問題により最終スコアは3となります。

上記は例示のみを目的としています。



## スチュワードシップ

私たちは様々なESGのトピックについて発行体とエンゲージメントを行い、各社のビジネス・モデル、戦略およびリスク特性に関する知見を得ています。対話の相手は債券の種類によって異なります。社債の場合は経営陣との対話を求めます。ソブリン債や地方債の発行体とのエンゲージメントでは、環境や財政を担当する政府高官のほか、地方財政担当官や議員と対話します。証券化商品の場合は、経営陣、投資銀行、格付機関、業界団体と対話します。債券保有者としてのエンゲージメントを通じて、投資元本の保全と成長に努めると同時に、資本市場の健全性強化にも努めます。

私たちは、投資期間全体を通して発行体とのエンゲージメントを行い、戦略的な計画に基づいたエンゲージメントによって影響力を最大限発揮することを目指しています。企業が資金調達を必要としている時にエンゲージメントを行うことで、発行体にサステナビリティ・リスクの抑制につながるベスト・プラクティスを採用するように働きかけます。クレジット・イベントにおいては、条件の再交渉を行う機会が得られたり、あるいは、株式と議決権を確保できることもあります<sup>8</sup>。この議決権は、お客さまと私たちの利益を守るために行使します。

私たちは債券発行体に対する発信力強化に継続的に努めていますが、一般的には債券保有者がサステナビリティの向上のために権利を行使することは少ないようです。例えば、一部の発行体からは、サステナビリティのリスクや機会について通常は債券保有者から対話の要請はないものの、私たちからのエンゲージメント要請は歓迎するという話を聞いています。このような声は心強く、債券保有者である私たちの意見は、企業に受け入れられています。





## 協働

私たちは、他の投資家、業界専門家、および発行体と共に、重大な長期的リスクについて協働エンゲージメントを行っています。また、特定の発行体のリスクに関する対応強化の手段として共同の取り組みに参加することもあります。

- **Credit Roundtable** 私たちは、社債発行企業に対する債券保有者の発言力を高めることを目的として、啓蒙、働きかけ、提唱を行う社債市場参加者の団体であるCredit Roundtableに加盟しています。
- **PRI Sovereign Debt and Sub-Sovereign Debt Advisory Committees** ESGリサーチ・アンド・インテグレーション・チームのディレクターのフレデリック・イスライブとアソシエート・ポートフォリオ・マネージャーのサード・カジは、PRIの署名機関で構成され、ソブリン債／準ソブリン債投資へのより体系的かつ透明性の高いESGのインテグレーション推進に取り組むPRI Sovereign Debt and Sub-Sovereign Debt Advisory Committeeの委員をそれぞれ務めています。2人は、委員会メンバーとして以下の発行文書に携わりました。
  - **ソブリン債のエンゲージメント** 現在の市場慣行を分析し、投資家がソブリン債発行体に効果的なエンゲージメントを行う機会を特定
  - **準ソブリン債へのESGインテグレーション** 米国の地方債投資家にESG要素の検討を正式に組み入れることを促すビジネス上および規制上のインセンティブが拡大していることを強調
- **TCFD** マニュライフ・インベストメント・マネジメントの日本債券チームは、日本政府の支援を受けて加盟企業の気候関連リスクの重要情報の開示を促進するTCFD コンソーシアムに積極的に関与しています。

## マルチアセット・ソリューション

運用資産残高：1,970億カナダドル<sup>19</sup>

運用プロフェッショナル：55名以上<sup>16</sup>

マニユライフ・インベストメント・マネジメントのマルチアセット・ソリューション・チーム (MAST) は、25年以上にわたりトップダウンアプローチによって、カスタマイズされたソリューション、ダイナミック・アセット・アロケーション、総合リスク管理を含む、複数の資産クラスとセクターを組み入れた分散ポートフォリオを構築してきました。業界全体の傾向として、株式や債券に比べて、マルチアセットはESGインテグレーションが遅れています。しかし、対象を絞ったインテグレーションによって成果が得られると考えます。そのため、MASTは2020年より、ESGリサーチと分析のボトムアップ・プロセスを従来のトップダウン・プロセスに一体化させるプロジェクトに着手しました。

チームはこのプロジェクトを開始するに当たり、ESGインテグレーションが投資戦略に重要であることを明確にしました。

資産配分を行う運用会社として、私たちはお客さまのために高い投資成果を得られるように、潜在的な機会とリスクの評価を重視しています。ESG要素の分析とインテグレーションは、マルチアセット・ソリューション・チームが行うリサーチを補完します。

次にチームは、運用プロセスに合わせて、ESGのリスクと機会を評価するための枠組みと重点分野を策定しました。

- 社内のESGインテグレーション・アンド・リサーチ・チームと連携する
- 株式、債券およびマルチアセットの各チーム間でサステナブル投資に関する見解を共有する
- 社内のグローバル・マネージャー・リサーチ・チームと協働して、マルチアセット・ソリューションに組み入れる個々の資産クラスのマネージャーのESGインテグレーションについて評価する
- ESGのトピックとそれが資本市場に与える潜在的な影響に関するマクロ経済調査の実施と報告に注力する
- 資産クラスの予測に関係する経済および市場のファンダメンタルズ情報にESGの観点から調整を行いシナリオを組み入れる
- データの集計と分析、定量的アプローチ、ポートフォリオ構築ツールを強化してESG要素の検討を組み入れる

<sup>19</sup> 外部委託の運用資産残高 (AUM) は合計から除外されています。資産は、すべてのアセットアロケーション、パッシブおよび負債対応投資 (LDI) を含みます。うち、564億カナダドルはMAST以外のマニユライフ・インベストメント・マネジメントの戦略で運用されています。



前記の重点分野から、より詳細なESG評価を必要とする8項目を明確化しました。

- |          |                             |          |                       |
|----------|-----------------------------|----------|-----------------------|
| <b>1</b> | チームのESGミッション・<br>ステートメントの作成 | <b>5</b> | マクロ・リサーチ              |
| <b>2</b> | グローバルなマネージャー<br>のリサーチ       | <b>6</b> | お客さまの<br>エンゲージメント     |
| <b>3</b> | 市場予測                        | <b>7</b> | 負債対応投資 (LDI)          |
| <b>4</b> | ポートフォリオ構築                   | <b>8</b> | ESGチームとの<br>教育イニシアティブ |

上記の事項から得られるアウトプットの1つの例として、気候変動と世界的な温暖化ガス排出による移行リスクが世界のGDPに与える影響が挙げられます。2つ目の例は、自社のソブリン債ESGモデルによるESGシグナルの捕捉です。3つ目の例は、ESGリスクへのセクター別エクスポージャーを把握する方法です。チームは運用プロセスへのESG要素のインテグレーションを拡大していることから、更なる進展が期待されます。

## プライベート・エクイティ&プライベート・クレジット

運用資産残高:125億カナダドル<sup>20</sup>

運用プロフェッショナル:54名<sup>21</sup>

### 概要およびハイライト

- PRIのプライベート・エクイティ分野において、B評価を取得<sup>2</sup>
- プライベート・エクイティ&プライベート・クレジットのESGインテグレーション・プロセスを2020年に正式決定(投資ライフサイクル全体におけるESGインテグレーションのガイドラインとツールを含む)
- サステナブル投資へのアプローチの概略を示す、プライベート・エクイティ&プライベート・クレジットにおけるサステナブル投資の枠組みを公開<sup>22</sup>
- 2020年の投資におけるESGパフォーマンスを評価する、正式なESGモニタリング・プロセスを構築・開始

### インテグレーション

プライベート・エクイティ&プライベート・クレジットでは、潜在的なダウンサイド・リスクと機会を把握するプロセスにおいてESG分析を使用します。

プライベート・エクイティ&プライベート・クレジット・チームは、デューデリジェンスの一環として投資案件ごとにESGアセスメントを行い、その結果をファンダメンタルズ分析に組み込みます。共同投資、セカンダリー投資、シニア・クレジットおよびジュニア・クレジットにおけるESG評価は、スポンサーについても行います。運用チームは、サステナビリティ会計基準審議会(SASB)やPRI等社外リソースと社内の専門知識を組み合わせた独自のESGデューデリジェンス・ツールを使用して、評価の参考とします。

ESGのデューデリジェンスの結果は投資メモランダムに記載され、投資委員会の承認プロセスの過程で提示されます。投資メモランダムのESG文書には、重大なサステナビリティ要素の概要、リスクの特定と説明、改善点、投資先企業がすでに十分な成果を挙げている分野などが記載されます。

運用チームは投資を行った後、投資パートナーと緊密に連携して、サステナビリティ要素を含む、投資や企業に影響を与える可能性のあるすべての重要課題をモニタリングします。運用チームは、株主としての権利、取締役の地位、投資先企業の支配権を有する投資パートナーとの幅広い関係などの多様な手段を使い、重大なサステナビリティ課題が見逃されることのないよう取り組んでいます。

<sup>20</sup> 運用資産残高(AUM)は、フェア・バリュー・ベース。当該数値は、マニユライフ・インベストメント・マネジメント・グループが資産運用サービスを提供する顧客の資産を集計対象としており、外部顧客資産、グループ内の保険会社の一般勘定を含みます。集計対象としている資産運用サービスを提供する顧客の資産には、マニユライフ・インベストメント・マネジメント・プライベート・マーケット(US)LLC(米国証券取引委員会登録済)によるサービスを含みます。マニユライフ・インベストメント・マネジメント・プライベート・マーケット(US)LLCのAUMには、プライベート・エクイティ&プライベート・クレジット・チームが運用する47億カナダドルを含みます。AUMは北米コーポレート・ファイナンス、マニユライフ・キャピタルおよびプライベート・エクイティ&プライベート・クレジット・チームのAUMで、未投資のコミットメント残高51億カナダドルは含まれません。<sup>21</sup> 運用プロフェッショナルの人員数は、外部顧客資産、グループ内の保険会社の一般勘定の資産を運用するチームの人員を含みます。<sup>22</sup> 2021年6月現在。

## スチュワードシップ

プライベート・エクイティ&プライベート・クレジットでは資産の保有期間を通じて、投資パートナーや投資先企業と協力して長期的なサステナビリティの支援に努めています。

アクティブ・オーナーシップの実践を強化するため、ESGモニタリング・プロセスを構築しました。このプロセスにより、各ポートフォリオのESGパフォーマンスの評価が可能です。収集したデータの活用により、アクティブ・オーナーシップは一段と強化され、ESG関連の活動・指標に関する投資家への報告を行っています。

直接投資ではゼネラル・パートナー（GP）などへのエンゲージメントを積極的に行っています。一般的な対話のトピックは、各社の最近の投資活動、注目すべき企業の最新情報、人事および四半期パフォーマンスの最新情報などです。取締役会のメンバーであるか、オブザーバーとして取締役会への参加資格を有する場合、四半期ごとの取締役会会合および臨時会合に参加します。ファンド投資では、リミテッド・パートナー諮問委員会（LPAC）のメンバーとして主要な意思決定に参加します。これは、運用チームがマネジメント・レベルの主要な意思決定者と対話する好機となります。LPACの委員を務める場合、利害相反、リミテッド・パートナーの制限免除に関わる問題をはじめ、関連する問題をレビューします。私たちは一投資家にすぎないかもしれませんが、最も重要な決定は当事者全員の全面的な支持を得て、取締役会メンバー・レベルで行われます。

## 協働

市場参加者、政策当局、規制当局、NGOと幅広く協力し、グローバルなサステナビリティ課題に対処しています。

プライベート・エクイティ&プライベート・クレジット・チームは、進化するベスト・プラクティスについての知見を得て、ESGインテグレーションの世界的な進展と導入に貢献するべく、他の投資家や業界のエキスパートと協力して取り組むことが重要だと考えています。

私たちは機関投資家として、長期的な投資価値の向上を目指して、各企業・組織と様々な投資課題について建設的な対話を行っています。ESG要素の情報公開、管理およびパフォーマンスのより良い変化を促すため、企業とのエンゲージメントを行っています。

## プライベート・エクイティ&プライベート・クレジットのモニタリング

### ファンド・オブ・ファンズのESGモニタリングの実践

2019年、私たちはプライベート・エクイティ・ファンドのポートフォリオのゼネラル・パートナー（GP）について初のESG評価を行いました。この分析によって、ESGリスクおよび機会の特定と管理、投資先企業へのエンゲージメント、情報開示とその透明性などに関して、GPのESG関連方針およびプロセスを評価することができました。

それ以来、私たちのESGインテグレーション手法は進化し、情報開示レベルも向上しています。業界のベスト・プラクティスに合わせた、ファンドへのコミットメントに対する新たなESGモニタリングの質問票にはサステナブル投資の方針、範囲およびプロセス、気候変動、DEI、投資前および投資後のプロセスにおけるESG原則、ESG関連事項の報告・管理に関する質問が含まれています。

## 2020年のESGモニタリングの質問票に対するGPの回答サマリー

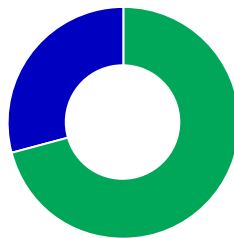
### GPへの質問

貴社はサステナブル投資のポリシーを定めていますか



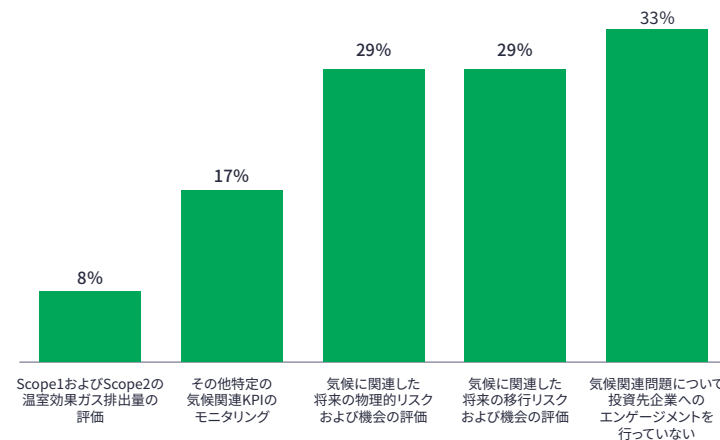
■ はい 100%

従業員に対してESG関連のトレーニングやサポート、社外リソースを提供しましたか



■ はい 71%  
■ いいえ 29%

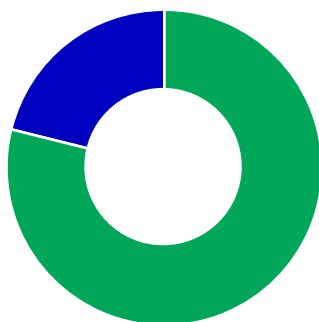
投資先企業に対して気候に関連する問題についてどのようなエンゲージメントを行っていますか



## 2020年のESGモニタリングの質問票に対するGPの回答サマリー（続き）

投資判断に関するGPへの質問

投資判断プロセスにESG要素の検討を組み込んでいますか

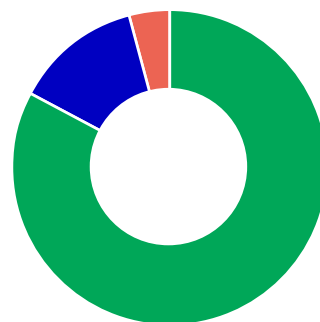


■ はい、体系的に組み込んでいる 79%

■ はい、ときどき行う 21%

■ いいえ、行っていない 0%

保有期間中に投資に関連するESG要素をモニタリングしていますか

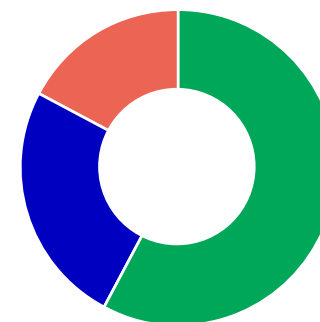


■ はい、少なくとも年1回行っている 83%

■ いいえ、モニタリングしていない 13%

■ はい、しかし年1回未満である 4%

ESG要素へのアプローチが投資先の財務業績やESGパフォーマンスに影響を与えているかどうか評価していますか



■ いいえ 58%

■ はい、ときどき行う 25%

■ はい、体系的に行っている 17%

## インフラストラクチャー

運用資産残高:125億カナダドル<sup>23</sup>

運用プロフェッショナル:22名<sup>21</sup>

### 概要およびハイライト

- インフラストラクチャー・チームによる風力、太陽光発電、バッテリー・ストレージを含む、再生可能エネルギー関連株式への投資額が25億カナダドルを突破<sup>24</sup>
- 2020年に2019年(報告年度)のGRESBインフラストラクチャーのファンド評価を初めて申請し、29/30のマネジメント・スコアを取得
- PRIのインフラストラクチャー分野でB評価を取得<sup>2</sup>
- 2021年初めに、コーポレート・ファイナンスおよびインフラストラクチャーのグローバル・ヘッドを務めるジョン・アンダーソンがPRIのInfrastructure Advisory Committeeの新たな署名機関の代表5名のうちの1名に任命
- インフラストラクチャーにおけるサステナブル投資のアプローチの概要を示すインフラストラクチャー:サステナブル投資の枠組みを公表<sup>25</sup>

## インテグレーション

従来の投資分析にサステナビリティ課題の詳細な検討と総合的な分析を組み合わせています。

インフラストラクチャーにおいてサステナブル投資が重要なのは、投資・運用期間が長期にわたるためです。インフラストラクチャー投資ではESGのリスクと機会の適切な管理が長期的に持続可能なリターンにつながると考えています。運用チームのインテグレーション手法には以下の主要なステップがあります。

- SASBやPRIといった社外リソースと社内の専門知識を組み合わせた独自のESGデューデリジェンス・プロセスを使用
- ESGのデューデリジェンス結果を投資メモランダムに記載し、投資委員会の承認プロセスで評価
- 投資を行った後も引き続き、ESG要素を含め、資産や企業に影響を与える可能性のある重大な側面をモニタリング
- 四半期レポート、年次株主総会によって、ESG関連情報を定期的に投資家に報告するほか、投資家からの要請に随時対応

<sup>23</sup> 運用資産残高(AUM)は、フェア・バリュー・ベース。当該数値は、マニユライフ・インベストメント・マネジメント・グループが資産運用サービスを提供する顧客の資産を集計対象としており、外部顧客資産、グループ内の保険会社の一般勘定を含みます。集計対象としている資産運用サービスを提供する顧客の資産には、マニユライフ・インベストメント・マネジメント・プライベート・マーケット(US)LLC(米国証券取引委員会登録済)によるサービスを含みます。インフラストラクチャー・チームが一任勘定で運用する資産は33億カナダドル。AUMは北米コーポレート・ファイナンスおよびマニユライフ・キャピタルのAUM。 <sup>24</sup> インフラストラクチャー・チームは、外部顧客、グループ内の保険会社向けに再生可能エネルギー関連のプライベート・エクイティを運用しています。 <sup>25</sup> 2021年6月現在。



## スチュワードシップ

私たちは、投資期間を考慮し、投資先企業のサステナビリティ向上に向けて、活動に取り組んでいます。

通常、インフラストラクチャー・チームは取締役の地位、保護的なガバナンス権・統制などにより投資先企業をモニタリングしています。これらにより、運用チームは企業の商業的もしくは財務的に重要な意思決定や、関連するサステナビリティのリスクと機会の管理・監督に影響力を行使することができます。特に取締役の地位は、投資先企業の経営陣と直接対話する機会となります。

ESGのモニタリング手法を向上させるため、プライベート・アセット部門のサステナブル投資チームはインフラストラクチャー・ポートフォリオのESG関連データ収集を目的として、毎年ESGモニタリングを行っています。モニタリング・プロセスで収集したデータは、投資先企業のESGパフォーマンスの評価に使用されます。

## 協働

市場参加者、規制当局およびNGOと幅広く協力し、グローバルなサステナビリティ課題に対処しています。

インフラストラクチャー・チームは、進化するベスト・プラクティスについての知見を得て、ESGインテグレーションの世界的な進展と導入に貢献するべく、他の投資家や業界のエキスパートと協力して取り組むことが重要だと認識しています。こうした認識から、インフラストラクチャー・チームは以下のイニシアティブに参画しています。

- **PRI Infrastructure Advisory Committee** 2021年初時点で、コーポレート・ファイナンスおよびインフラストラクチャーのグローバル・ヘッドを務めるジョン・アンダーソンが、マニユライフ・インベストメント・マネジメントの代表として、PRIのInfrastructure Advisory Committeeの委員を務めています。
- **Long-term Infrastructure Investors Association (LTIIA)** インフラストラクチャー投資ヘッド兼ポートフォリオ・マネージャーのリセップ・ケンディルジオグルがLTIIAの理事を務めています。LTIIAは、インフラストラクチャー投資家、政策当局、研究者などの多様なステークホルダーと連携し、全世界の公共インフラストラクチャー・プロジェクトへの民間資金による長期的かつ責任ある投資を推進しています。

## 不動産

運用資産残高:230億カナダドル<sup>26</sup>

運用プロフェッショナル:84名<sup>21</sup>

### 概要およびハイライト

- 世界の不動産ポートフォリオ全体の気候変動リスクと耐性を評価
- GRESBリアルエステートのレジリエンス・モジュールで100点満点中86点のスコアを獲得し、13社中3位にランク(グローバル/複合一オフィス/産業用)
- 投資のデューデリジェンス・プロセスに気候変動リスク評価を組み入れ
- カナダ運用ファンドの100%がグリーン・ビルディング認証を取得<sup>27</sup>
- PRIのA評価を取得<sup>2</sup>
- 2050年までに温室効果ガス排出量を80%削減する目標を設定<sup>28</sup>

## インテグレーション

不動産バリューチェーン全体にわたり、投資と運営にESG要素の検討を組み込んでいます。

不動産投資チームは、新規取得で重要になるとされる環境と社会の両要素の評価に役立つESGツールキットを使用しています。このツールキットは、資産の立地場所、屋外の緑地帯への近接性、屋内の健康設備システム、気候変動リスクに基づく定量的評価と、健康・安全管理プログラム、電気自動車の充電、自転車収納、シャワー設備、センサーなどによる制御やモニタリングが可能な屋内空気調節機能に基づく定性的評価の両方を行います。

2020年に、気候変動リスク評価を含め、サステナビリティを資産取得プロセスに一段と組み込むため、投資ツールを見直しました。

<sup>26</sup> 運用資産残高(AUM)は、フェア・バリュー・ベース。当該数値は、マニユライフ・インベストメント・マネジメント・グループが資産運用サービスを提供する顧客の資産を集計対象としており、外部顧客資産、グループ内の保険会社の一般勘定を含みます。集計対象としている資産運用サービスを提供する顧客の資産には、マニユライフ・インベストメント・マネジメント・プライベート・マーケッツ(US)LLC(米国証券取引委員会登録済)によるサービスを含みます。不動産エクイティ・チームが一任勘定で運用する資産は7億カナダドル。<sup>27</sup> BOMA BEST、LEED、Energy Star、Fitwelを含む様々な認証プログラムを含みます。<sup>28</sup> 目標はマニユライフ・インベストメント・マネジメントが業務管理する不動産のScope1およびScope2の排出原単位を基準とする削減量です。

## 不動産ESGインテグレーション・ツールキット

### 投資プロセス



上記は例示のみを目的としています。新規ツールは2020年に追加されたものです。

マニユライフ・インベストメント・マネジメントは、気候変動リスクが次第に不動産の重大な課題になってきているとの認識を有しています。世界各地で気候変動の影響を感じさせる事象が増える中、投資家、従業員、テナントがその対応策の重要性を理解することが不可欠です。

運営とサプライチェーンの低炭素化によって気候変動の緩和に継続的に努めると同時に、不動産ポートフォリオと管理手法の気候に対する耐性を強化しなければならぬと私たちは考えています。

## スチュワードシップ

ビルの所有者兼運営者として、以下5項目のサステナブル不動産に関するコミットメントを遵守しています。

- 1 環境への影響を最小限に抑える
- 2 健康と安全な暮らしをサポートする
- 3 ステークホルダーにサステナビリティへの取り組みを求める
- 4 責任あるビジネス慣行を促進する
- 5 自社のパフォーマンスに対して責任を負う

マニユライフ・インベストメント・マネジメントのサステナブル不動産の枠組みは、5項目のサステナビリティのコミットメントの概略を示し、重点分野を詳細に規定しています。また、公開レポートと業界ベンチマークを用いて手法とパフォーマンスを検証します。そして、投資、運営、新規開発においてサステナビリティ・イニシアティブを継続的に推進します。すべてのステークホルダーに対する責任を徹底するため、PRI、SASB、GRESBなど世界的に認められている基準と情報開示の枠組みにより、パフォーマンスを報告しています。

グローバル・ポートフォリオについて、エネルギー削減目標のほか、水使用量と廃棄物転用の目標を設定しています。2020年には、温室効果ガス排出量を2050年までに80%削減する目標を設定しました<sup>29</sup>。これらの目標の達成度を年次レポートで公開しています。

<sup>29</sup> 運営管理する資産の炭素排出原単位を基準とするScope1およびScope2の目標排出量。 <sup>30</sup> グローバル・ポートフォリオの不動産の総面積（平方フィート）に基づいて算出。複数の認証を取得している物件は1回のみカウントされるため、各認証基準の合計は総合計ではありません。

## カナダ・ポートフォリオ： 100%のグリーン・ビルディング認証取得を達成

2020年にカナダの運用ファンドのグリーン・ビルディング認証取得率が100%に達しました。これはカナダにおける1,900万平方フィート超の不動産資産が第三者機関によるサステナビリティ認証を満たしていることを意味します。

この成果は主に、カナダ最大のグリーン・ビルディング認証プログラムであるBOMA BESTに準拠しカナダ全土における不動産について対応したことによるものです。BOMA BESTにより、エネルギー管理からグリーン・クリーニングに至るまで、16項目のサステナビリティのベスト・プラクティスの遵守が義務付けられています。

カナダの不動産の多くはその他のグリーン・ビルディング認証も取得しています。これには、LEED（全体的なパフォーマンス）、Energy Star（エネルギー効率）、Fitwel（健康と安全な暮らし）が含まれます。

現在、グローバル・ポートフォリオの80%以上がグリーン・ビルディング認証を取得しています<sup>30</sup>。2021年にはBOMA BESTの取り組みを米国に拡大しています。

## 変化への備え：

### ポートフォリオの気候変動リスクと耐性の評価

気候変動に起因する自然災害や気象災害は、その規模も発生頻度も今後ますます増大することが予想されます。こうした気候変動リスクには、洪水や暴風雨といった突発的事象のほか、干ばつや気温上昇といった慢性的な事象があります。

2019年に気候バリュー・アット・リスク・モデルを試験的に導入し、保有する不動産の気候変動によるリスクの評価と、シナリオ分析やガイダンス・レポートへの情報提供を開始しました。これは、UNEP FIのリーダーシップ・グループの活動の一環として行われました。

この取り組みを契機に、私たちは2020年にポートフォリオ全体のリスク調査を行いました。過去のデータと将来の気候モデル・データの両方を組み合わせた外部機関のデータを利用し、洪水、極度の暴風、山火事、海水面の上昇、干ばつ、ヒートストレス、地震の7つのリスクを評価しました。これらにより、2040年までの包括的なリスク・エクスポージャー・プロファイルを作成することができました。

気候変動リスクと耐性の両面を評価することはTCFD提言に沿ったものです。また、より重要なのは、それが長期的なリスク管理に役立つことであり、責任あるビル所有者兼運営者が行うべき行動であるという点です。

## 協働

市場参加者、政策当局、規制当局、NGOと幅広く協力して、グローバルなサステナビリティ課題に対処しています。

### 健全なビルディング

テナントや従業員の健康と安全な暮らしを支えることは、2017年に策定した不動産サステナビリティの枠組みにおける中核的なコミットメントの1つです。

以来、この分野に積極的に取り組んできましたが、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの状況下でその活動をさらに拡充しています。2020年にオフィス物件におけるウイルス感染リスクの抑制に関する既存の方針と手続きをレビューするタスクフォースを設置しました。ハーバード大学公衆衛生大学院のジョセフ・G・アレン博士に初の「Return to office playbook」作成の支援を仰ぎました。このプレイブックは、急速に変化する状況の下で保有するビルをどのように管理すべきかの概略を明確に示すもので、従業員の行動、コミュニケーション基準、オペレーション・システムの更新に関するガイドラインも含まれています。

パンデミックによって健康に配慮した屋内環境への期待が高まっています。私たちの取り組みのもう1つの例として、健康に配慮した建築物についてのアレン博士とのディスカッションをInstitutional Real Estate, Inc. (IREI) と共同主催しました。

私たちはこのイベントで、ビル建設において人を最優先することを意思決定の中核とすることがデベロッパー、投資家、テナントに等しく大きな機会をもたらすことを主張しました。また、健全で安全な、リターンと健康を重視するビルの投資経済性と、ビル所有者と投資家が職場をどう整備すればよいかについて討議しました。

## 森林農地投資

運用資産残高:180億カナダドル<sup>31</sup>

運用プロフェッショナル:66名<sup>21</sup>

### 概要およびハイライト

- TCFD提言に沿って、気候に関する情報開示レポートを公表
- 米国で直接運営する、70,000エーカーの農地プラットフォーム全体が新たな Leading Harvest Farmland Management Standardの下で認証された初の農地となる
- 影響力が大きく信頼性の高い、炭素隔離投資を対象としたインパクト・ファースト・イニシアティブを立ち上げ
- マニュライフ・インベストメント・マネジメントが管理する森林・農地が吸収した炭素は約220万MtCO<sub>2</sub> (5年間移動平均)。
- マニュライフ・インベストメント・マネジメントの温室効果ガスインベントリ(温室効果ガス排出・吸収量)について初の第三者機関による監査を実施(2021年)

### インテグレーション

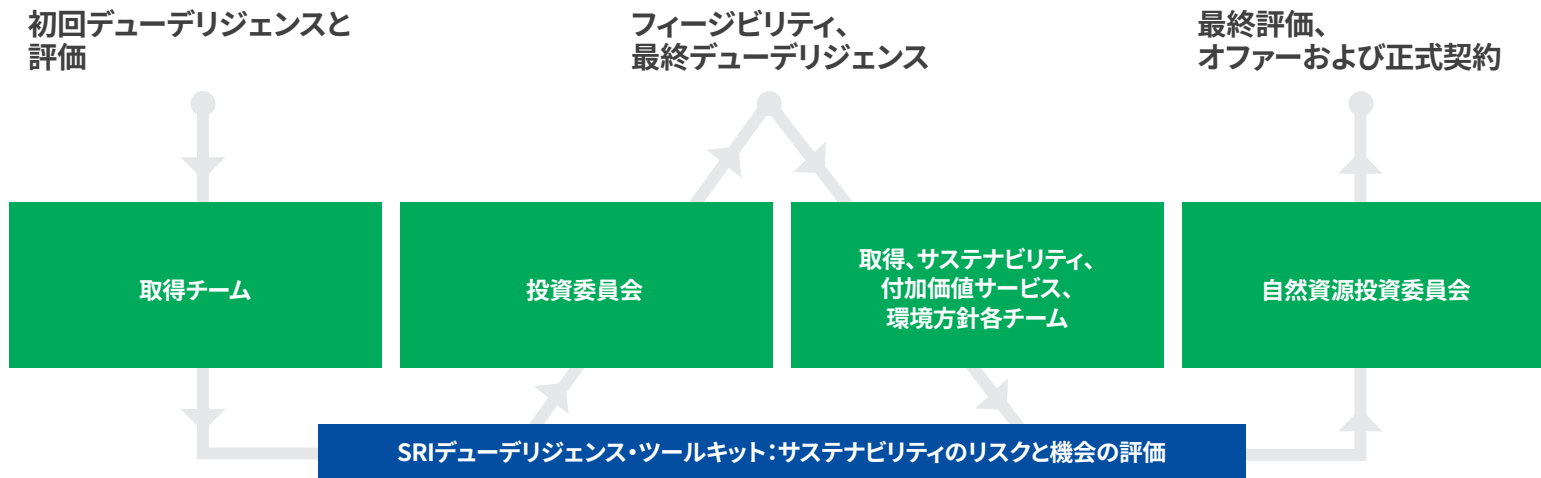
サステナビリティは、森林農地投資チームの物件取得のデューデリジェンスに不可欠な要素です。2020年にアイデア創出から対象物件の特定、取得のデューデリジェン

ス、評価、成約に至るまで投資プロセス全体にわたってサステナビリティを明文化し、組み込むための正式な手法を確立する全体的なプロセスを完了しました。すべての見込み案件において、関連するすべてのESG要素を標準化された方法に従って確実に検討するため、投資機会の特徴を一貫した体系的なアプローチで評価できるように開発した新しいサステナブル投資/責任投資(SRI)ツールキットを使用します。このツールキットは、気候の安定性、生態系の耐性、流域保護、人材育成、地域コミュニティの繁栄という、5つの主要なサステナビリティ優先課題に基づいて構成され、それぞれに対処するために行う評価手法を明文化しています。

全体的評価は2段階で行われ、最初に取得チームが初回デューデリジェンスとバリュエーションで第1段階のレビューを行います。関連するリスクと機会は、発生確率と影響度について低、中、高の評点で評価します。この初回評価は、投資委員会でレビューおよび投票を行う際の情報パッケージに組み込まれます。案件は投票審査を通過すると、フィージビリティ、最終デューデリジェンスに進みます。次に取得チームと、サステナビリティ、付加価値サービス、環境方針などサポート・チームが関与する第2段階でツールキットを使用します。これらのチームは発生確率と影響度の評価項目に加え、様々な社外のリソースやツールを用いてサステナビリティについてより深く精査し、リスク緩和と機会実現の計画を策定します。こうした調査結果はツールキットに明文化され、引き受けの検討事項に組み込まれ、最終的な投資判断を下す自然資源投資委員会による票決のための投資メモに記載されます。

<sup>31</sup> 運用資産残高(AUM)は、フェア・バリュー・ベース。当該数値は、マニュライフ・インベストメント・マネジメント・グループが資産運用サービスを提供する顧客の資産を集計対象としており、外部顧客資産、グループ内の保険会社の一般勘定を含みます。集計対象としている資産運用サービスを提供する顧客の資産には、マニュライフ・インベストメント・マネジメント・プライベート・マーケット(US) LLC(米国証券取引委員会登録済)によるサービスを含みます。マニュライフ・インベストメント・マネジメント・ティンバー・アンド・アグリカルチャー(MIMTA)のAUMは、外部顧客、グループ内の保険会社の一般勘定およびグループ会社向けに一任および非一任勘定で運用するAUM。

## SRIツールキット



SRIのテーマ	気候の安定性	生態系の耐性	流域保護	人材育成	コミュニティの繁栄
<b>リスクと機会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動の影響</li> <li>炭素排出</li> <li>森林破壊</li> <li>炭素隔離</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別重要地</li> <li>保護地域</li> <li>生物多様性</li> <li>絶滅危惧種</li> <li>ミティゲーション・バンキング*</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水量、水質</li> <li>洪水、干ばつのリスク</li> <li>地下水枯渇</li> <li>ウォーター・バンキング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康と安全</li> <li>トレーニングと能力開発</li> <li>労働慣行</li> <li>人権</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティとの関係</li> <li>先住民</li> <li>雇用創出</li> <li>リサーチ、インターンシップ</li> </ul>

評価項目	発生確率 x 影響度 x 緩和策 x リソース
------	-------------------------

\*開発前の自然と比較して質・量が向上した場合に、プラス分を蓄積（バンキング）すること  
上記は例示のみを目的としています。



## スチュワードシップ

私たちは競争力ある金融資産の価値を創出するだけでなく、第三者機関のサステナビリティ基準で定められた環境・社会の主要目標を達成することを目的として森林と農地を管理しています。森林投資における基準にはSustainable Forestry Initiative® (SFI®) やForest Stewardship Council® (FSC®)、農地投資にはLeading Harvest、GlobalG.A.P.、USDA Good Agricultural Practices (GAP)、LODI RULES、SAI-FSAなどがあります。

こうした基準に一貫して準拠した事業運営を行うため、土壌、大気、水質、生物多様性、野生生物の生息環境の保全、活気にあふれた健全なコミュニティへの参加にコミットしながら、有用な生産物を生み出す実用的な土地の開発、運営・管理についての包括的なスチュワードシップ原則を遵守しています。当原則に基づき、プロパティ・マネジメントのプロフェッショナルが日々の運営管理に関する意思決定の手引きとする、より詳細なスチュワードシップ方針が策定されています。

2020年末現在、保有する森林の100%がSFI(米国とカナダの330万エーカー)か、FSC(オーストラリア、ニュージーランド、およびチリの210万エーカー)のいずれかの認証を取得しています。また、サステナブル農地の認証についても、100%取得を目指しています。

次項で、第三者機関の認証におけるサステナビリティの原則と目標の例を説明します。



## 第三者機関の認証におけるサステナビリティの原則と目標の例

### SFIの原則

- 1 持続可能な森林
- 2 森林の生産性と健全性
- 3 水源の保護
- 4 生物多様性の保護
- 5 景観の美観と再生
- 6 特別な土地の保護
- 7 責任ある木質繊維の調達
- 8 法令および規制の順守
- 9 調査研究
- 10 トレーニングと教育
- 11 地域社会への関与と社会的責任
- 12 透明性
- 13 継続的な改善



### FSCの原則

- 1 法令および規制の順守
- 2 労働者の権利と雇用条件
- 3 先住民の権利
- 4 地域社会との関係
- 5 森林から享受するメリット
- 6 環境の価値と影響
- 7 管理計画
- 8 モニタリングとアセスメント
- 9 保護価値の高さ
- 10 管理活動の実施



### Leading Harvestの原則

- 1 サステナブルな農業
- 2 土壌の健全性と保全
- 3 水源の保護
- 4 作物の保護
- 5 エネルギー使用、空気質、気候変動
- 6 廃棄物および資材の管理
- 7 生物多様性の保全
- 8 特別な土地の保護
- 9 地域社会
- 10 従業員および農場労働者
- 11 法令および規制の順守
- 12 経営監査と継続的な改善
- 13 テナント管理農地の運営



## 協働

マニユライフ・インベストメント・マネジメントは協力して取り組むことを中核的な価値観とし、協働をビジネスの基盤としています。すべての分野の専門家になることは不可能であることを理解した上で、私たちの強みを補完でき、共通した価値観や文化を持つ組織や企業と、互いに有益な関係を築くことを目指しています。Leading Harvestはそれを体現する一例です。森林調査協同組合との幅広いパートナーシップ・ネットワークやハリケーンの際に見られたチーム間の協力もそれを示すものです。

こうした関係はサステナビリティのパフォーマンス向上に有益だけでなく、世界的な課題の解決には一致団結した取り組みが不可欠だという私たちの信念を反映するものでもあります。以下は私たちが2020年にプログラムへの参加、研究資金の拠出、寄付などを通じて積極的に連携した例です。

- マサチューセッツ工科大学のJoint Program on the Science and Policy of Global Change、カリフォルニア大学デービス校における農地と森林の気候変動への耐性に関する研究をサポート
- 自然気候ソリューションとして森林業・農業の拡大に重点的に取り組む業界のパートナーと共同で、持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD: World Business Council for Sustainable Development)のForest Solutions Group、Scaling Positive Agriculture、Nature Actionのプロジェクトに参加

- ミシガン州立大学森林学部のForest Carbon and Climate Programのクライメート・スマートな森林管理への理解と実践を促進するミッションをサポート
- American Farmland Trustの再生可能農業手法の導入と定量化可能な農地保全の成果に関する調査・共有を推進する取り組みをサポート
- American Bird Conservancyの北米における絶滅危惧種を含む野鳥とその生息域を保全する取り組みに資金提供
- Conservation Fundによる野生生物の生息域、気候変動の緩和、土地および水資源を保護する取り組みをサポート

# 付属資料

## Global collaboration

Below are examples of current sustainability/ESG industry groups and initiatives with which we're engaged.

Organization	Year joined	Region	Focus	Manulife Investment Management's involvement
<a href="#">30% Club Canadian Investor Group</a>	2019	Canada	A group of asset owners and asset managers committed to exercising their ownership rights to encourage increased representation of women on corporate boards and in executive positions	We have a target list of Canadian companies established annually; we engage with select companies from this list.
<a href="#">Asian Corporate Governance Association (ACGA)</a>	2016	Asia	Promotes implementation of effective governance practices in Asian companies on behalf of institutional investors and regulators	We're an active member in the association in addition to participating in the China and Korea working groups.
<a href="#">Asia Investor Group on Climate Change (AIGCC)</a>	2016	Asia	Works with Asian asset owners and financial institutions to create awareness about the risks and opportunities associated with climate change and low carbon investing	We're an active member of the group and chair the physical risk and resilience working group.
<a href="#">Board Diversity Hong Kong Initiative</a>	2018	Asia	Commits to an ongoing engagement on diversity at all levels with listed companies in Hong Kong, starting with the board of directors	We're one of the founding members of the Board Diversity Hong Kong Initiative.  We believe diversity on boards encourages better leadership and better corporate governance, and it ultimately increases corporate performance and global competitiveness for both companies and their shareholders.
<a href="#">Building Owners and Managers Association (BOMA) Canada</a>	2018	Canada	Implements timely, responsible, and consistent policy positions on important issues to the Canadian real estate industry; acts as the voice representing the industry by advocating on members' behalf on a national or provincial platform	We attend quarterly meetings and aid in developing tools and standards for the commercial real estate industry on how to integrate resilience best practices and adapt to changing climate conditions.
<a href="#">Canadian Coalition for Good Governance (CCGG)</a>	2012	Canada	Focused on corporate governance organization in Canada	We have representation on the E&S (environmental and social) committee.
<a href="#">Canadian Infrastructure Bank—National Energy Efficiency Retrofits Financing Program Owners &amp; Operators Working Group</a>	2020	Canada	Intent to accelerate deep energy retrofits in buildings in the private, commercial, institutional, and industrial buildings through a targeted federal government investment of up to \$4 billion over 6 years	We actively engage in the working group.
<a href="#">CDP</a>	2018	Global	Advocates for disclosure of company data to measure and manage the environmental impact (carbon, water, forestry); one of the first ESG disclosure initiatives in the financial industry	We're a member of CDP and participate in various initiatives such as the Science Based-Targets initiative (SBTi).

Organization	Year joined	Region	Focus	Manulife Investment Management's involvement
<a href="#">Ceres Investor Network</a>	2016	Global	Promotes discussion and collaboration on how to address climate risk and other sustainability challenges among institutional investors	We participate in discussions and initiatives brought forward by Ceres. We're also a member of the Investor Water Hub and founding member of the valuing water investor working group.
<a href="#">Climate Action 100+</a>	2018	Global	Collaborative engagement with largest corporate GHG emitters	We're a founding member of Climate Action 100+ and co-lead several engagements across North America and Asia.
<a href="#">Climate Smart Land Network (CSLN)</a>	2015	North America	Provides forest landowners and managers with direct access to forest and climate experts and the opportunity to benefit from other forest landowners in the network	Our timber and agriculture team has been a member since CSLN's inception. We continue to share information at their annual member gatherings as well through emails and monthly calls aimed to support the acceleration of natural climate solutions.
<a href="#">Concordia University</a>	2020	Canada	The sustainable investing practicum (SIP) enables undergraduate business students to better understand the principles of ESG investing in a capital market environment. Students make fund management recommendations to a supervisory committee based on sustainable investing criteria	Concordia's John Molson School of Business (JMSB) signed a partnership agreement with Manulife Investment Management that established the first sustainable investing practicum at a Canadian university.
<a href="#">Emerging Markets Investors Alliance</a>	2015	Global	A central hub for information, education, and networking for investors in emerging markets	We're an active member of the extractive industries working group.
<a href="#">Global Compact Investing Network (GIIN)</a>	2018	Global	Organization dedicated to increasing the scale and effectiveness of impact investing	We're a member company and contributor to sector-specific databases and reports and a participant in the sustainable agriculture working group.
<a href="#">Global Real Estate Sustainability Benchmark (GRESB)</a>	2015	Global	Validates, scores, and benchmarks ESG performance data for real assets, providing business intelligence and engagement tools to investors and managers	We report to the GRESB real estate and infrastructure assessments on an annual basis.
<a href="#">Hong Kong Green Finance Association (HKGFA)</a>	2018	Hong Kong	Promotes adoption of green finance and investment by gathering industry experts to provide policy suggestions to the Hong Kong government and other regulators	We contribute to the working groups, including on topics such as green bonds and product innovation as well as external collaborations.
<a href="#">Institutional Limited Partners Association (ILPA)</a>	2014	Global	Engages, empowers, and connects limited partners to maximize their performance on an individual, institutional, and collective basis	We're an active member of the ILPA ESG working group.
<a href="#">International Corporate Governance Network (ICGN)</a>	2019	Global	Promotes effective standards of corporate governance and investor stewardship to advance efficient markets and sustainable economies worldwide	We're an active member of the stewardship committee.
<a href="#">Investment Company Institute (ICI)</a>	2015	Global	Encouraging adherence to high ethical standards by all industry participants; advancing the interests of funds, their shareholders, directors, and investment professionals; and promoting public understanding of mutual funds and other investment companies	We're involved in calls and discussions on sustainability-related disclosures for asset managers.

Organization	Year joined	Region	Focus	Manulife Investment Management's involvement
<a href="#">University of Cambridge Investment Leaders Group (ILG)</a>	2020	United Kingdom	A global network of pension funds, insurers, and asset managers, with over £14 trillion under management and advice, committed in its mission to advance the practice of responsible investing  A voluntary initiative, driven by its members, facilitated by the Cambridge Institute for Sustainability Leadership (CISL), and supported by academics in the University of Cambridge	We're an active member of the CISL ILG, striving to create an investment chain that prioritizes economic, social, and environmental sustainability.
<a href="#">Leading Harvest</a>	2020	United States	Advancing sustainable agriculture, providing assurance programs comprising standards, audit procedures, training and education, and reporting and claim offerings	Our timber and agriculture business was a founding member; in addition, our global head of agriculture, John Anderson, is current chair of the board of directors.
<a href="#">Long-term Infrastructure Investors Association (LTIIA)</a>	2017	United States	Works with a wide range of stakeholders—infrastructure investors, policymakers, and academics, among others—to enable the long-term, responsible deployment of private capital in public infrastructure projects around the world	Recep Kendircioglu, portfolio manager, head of infrastructure investments, sits on the board.
<a href="#">MIT Joint Program on the Science and Policy of Global Change</a>	2016	Global	Studying interactions among human and earth systems to provide a sound foundation of scientific knowledge	We're an active sponsor and project representative.
<a href="#">National Alliance of Forest Owners (NAFO)—United States</a>	2008	United States	National advocacy organization committed to advancing federal policies that ensure sustainable practices and strong markets of our working forests	We have representation on the board of directors, operating committee, and climate change and environment task groups.
<a href="#">Principles for Responsible Investment (PRI)</a>	2015	Global	United Nations-supported international organization that works to promote the incorporation of ESG into investment decision-making	We're a signatory and active member of various working groups, including the fixed-income advisory group, sovereign bond working group, and the listed equity integration subcommittee.
<a href="#">Programme for the Endorsement of Forest Certification (PEFC)</a>	2007	Global	Global alliance of national forest certification systems	We're actively involved on the board of directors.
<a href="#">Real Estate Roundtable Sustainability Policy Advisory Committee (SPAC)</a>	2019	United States	Seeks to educate policymakers and the public about real estate and its significance to the economy	We participate in monthly meetings and engagement on federal or state policy and regulations affecting commercial real estate.
<a href="#">REALPAC Canada ESG Committee</a>	2017	Canada	Members include publicly traded real estate companies, real estate investment trusts, private companies, pension funds, banks, and life insurance companies with investment real estate assets each in excess of \$100 million	We participate in monthly meetings and engagement on federal, provincial, or municipal policy.

Organization	Year joined	Region	Focus	Manulife Investment Management's involvement
<a href="#">Responsible Investment Association (RIA) Canada</a>	2019	Canada	Promotes responsible investing and ESG integration into the investment process in Canada	We actively participate in initiatives and roundtables organized by the RIA.
<a href="#">Singapore Standards Council (SSC), Enterprise Singapore</a>	2019	Asia	Facilitates the development, promotion, and review of standards and technical references in Singapore	We're a member of the working group, providing input on the development of an ISO standard for sustainable finance.
<a href="#">Value Reporting Foundation (SASB standards)</a>	2019	Global	Engages with leading companies to encourage a market standard for ESG disclosure and to foster adoption of SASB disclosure metrics	We're an organizational member of the SASB Alliance.
<a href="#">Securities Industry and Financial Markets Association (SIFMA)</a>	2015	United States	Industry trade group representing securities firms, banks, and asset management companies that advocates on legislation, regulation, and business policy affecting retail and institutional investors, equity and fixed-income markets, and related products and services	We've engaged in the IOSCO consultation on sustainability-related disclosures for asset managers and the UK FCA climate disclosure consultation with SIFMA.
<a href="#">Sustainable Forestry Initiative (SFI)</a>	2002	North America	Collaborates with a diverse network to provide forest-based solutions to local and global sustainability challenges	We've engaged on the resources committee.
<a href="#">Taskforce on Nature-related Financial Disclosures (TNFD)</a>	2020	Global	Focused on redirecting flows of finance at scale toward nature-positive activities to allow nature and people to flourish	We were members of the Informal Working Group developing the scope for TNFD.
<a href="#">Task Force on Climate-related Financial Disclosures (TCFD) Consortium (Japan)</a>	2019	Asia	Comprises corporate and investor members and aims to foster best practice in TCFD reporting	We're a member of the investor group, supporting companies to provide decision-useful disclosure.
<a href="#">UNEP FI Property Working Group (PWG)</a>	2019	Global	Drives innovation in responsible property investment by facilitating access to relevant information and best practices for systematically applying and integrating ESG criteria into investment and lending decisions	We attend and contribute to the quarterly working group meetings.
<a href="#">UNEP FI TCFD Pilot Project (Phase II 2021)</a>	2021	Global	Paid membership to participate in banking and investor pilot project in 2021, with objective to provide financial institutions with leading approaches for assessing climate risks and opportunities	We've participated in various modules: real estate, assessing climate tools and disclosure of physical and transition risk. We're a member of UNEP FI Pilot on Climate Change Scenario Analysis (phase I and phase II).
<a href="#">World Benchmark Alliance (WBA)</a>	2018	Global	Seeks to increase the private sector's sustainability impact; creates benchmarks to incentivize and accelerate companies' efforts toward achieving the UN's SDGs	We're a supporter of the initiatives.
<a href="#">World Business Council for Sustainable Development (WBCSD)</a>	2019	World	CEO-led organization of over 200 leading businesses working together to accelerate the transition to a sustainable world	We're a council member and liaison delegate. Our timber and agriculture team actively participates in the WBCSD's forest solutions group, scaling positive agriculture, and nature action projects in collaboration with industry partners focused on scaling forestry and agriculture as natural climate solutions.

## Manulife Investment Management

### ディスクレーム

- 本資料は、海外グループ会社の情報を基にマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「当社」といいます。）が作成した情報提供資料です。
- 参考として掲載している個別銘柄を含め、当社が特定の有価証券等の取得勧誘または売買推奨を行うものではありません。
- 本資料は、信頼できると判断した情報に基づいておりますが、当社がその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の記載内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更される場合があります。
- 本資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 本資料に記載された見解・見通し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。
- 本資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、その開発元または公表元に帰属します。
- 本資料の一部または全部について当社の事前許可なく転用・複製その他一切の行為を行うことを禁止させていただきます。

マニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 433 号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会 一般社団法人 日本投資顧問業協会 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会